

シ其商品ヲ把テ要求ニ應スルコトヲ得シ又若シ商標ヲ取除キ難キ商品ハ假令ヒ之ヲ官府ニ沒收スルモ又之ヲ犯者ノ手中ニ存スルモ其物品ヲ毀壞セサル限りハ正當ノ物品タルヲ得ス而シテ其毀壞セシ物品ノ如キ被害者之ヲ得ルモ亦焉ソ已レニ益セン斯ノ如キ場合ニハ別ニ賠償ヲ要求シテ可ナリ因テ本官ハ本條ヲ修正シテ商標滅却ニ止メ以下ノ處分ハ悉皆削除ニ付セント欲ス然ルニ尙ホ一ノ修正ヲ爲ササル可ラサル有リ即チ單ニ前陳ノ如クセハ「第十六條第十七條第十八條ノ場合ニ於テハ仍ホ違犯ノ商標ハ滅却ス」ト爲リ以テ原案第二十條ノ官府ニ對スル詐僞ノ場合ニ商標滅却ノ裁制ヲ及ホス能ハスシテ本官ノ主旨ヲ徹底セシムルヲ得ス抑モ第二十條ハ詐僞ヲ以テ登録ヲ得若クハ登録ヲ詐稱シテ他人ヲ誣詐スル犯罪ニシ

テ其情本ト重シ例之ハ麥酒ノ罇罇ニ農商務省免許ト標記スルカ如シ是等ハ彼ノ僞造又ハ相紛ハシキ商標ト一般ニシテ其害惡素ヨリ恕ス可ラサレハ滅却ノ處分ヲ爲スハ當然ナリ然ルニ第二十條ハ本條即チ第十九條ノ下ニ在レハ本條ノ制裁ヲ之ニ及ホス可ラサルノ憾ミ有リ因テ今其位置ヲ轉倒シ第二十條ヲ第十八條ノ下ニ移シテ第十九條ト爲シ本條ヲ以テ第二十條ト爲サント欲ス若シ然セハ本條ノ行文ハ修正ヲ加ヘ第十六條第十七條第十八條第十九條ノ違犯ニ係ル商標ハ滅却セシムト爲ササル可ラス前會ニ於テ某議官ハ詐僞等ノ場合ニ於テ其證據分明ナレハ商標ヲ滅却スル當然ナルモ若シ無罪タル場合ニ在テモ尙ホ商標ヲ滅却スルヤ否ヤヲ内閣委員ニ質問セシニ内閣委員ハ否ラスト答辨セシ如ク記臆ス故ニ若シ本案

ノ如クセハ或ハ此疑議ヲ生ス可キモ本官ノ説ノ如ク違犯ニ係ル商標ト爲サハ全ク罰例ニ處セララルルモ免訴若クハ無罪放免ニ處セラ
 ルルモ共ニ其商標ヲ滅却セララルルハ分明ナラン是レ犯罪タラサル
 モ其相類似セル商標ヲ存在セシム可ラサレハナリ本官ノ修正説ハ
 頗ル醋雜ナル如キモ要スルニ第十九條ト第二十條トノ位地ヲ轉換
 シ第二十條ノ犯罪モ本條ノ制裁中ニ包括セシメ無要ナル沒收處分
 ヲ除キテ滅却處分ニ止メシムルニ外ナラス各位幸ニ本官ノ旨趣ヲ
 翫味シテ之ヲ賛成センコトヲ望ム

○三十番 榎村 正直 賛成ス沒收物品ヲ政府ノ所得ニ歸スルノ不可ナルヨ
 リ賠償ニ充テシムルコトニ修正シタリシモ此處分ハ到底其要用ヲ
 見ス即チ違犯ノ商標ヲ滅却セシメハ足レリトス且其第二十條ヲ第

○十九條ト爲シ本條ノ制裁中ニ包括セシムル如キハ最モ事理ノ當ヲ
 得タリト謂フ可シ

○二十五番 鍋島 直彬 賛成

○二十番 宮本 小一 賛成

○十八番 林友 幸 賛成

○二十六番 西村 貞陽 賛成

○議長 二十七番ノ修正説ハ現議題ノ外ニ涉リ即チ第十九條ト第二
 十條トノ地位ヲ轉換シ以テ原案第十九條ニ修正ヲ加フルニ在レハ
 若シ各官ニ異議ナクンハ第二十條ヲ朗讀セシメ連帶シテ以テ議題
 ニ付セント欲ス

○二十七番 箕作 麟祥 議長ノ演告ハ實ニ當然ナリ願クハ併セテ議題ニ付

○センコトヲ

書記官 森山 茂 朗讀

第二十條 詐僞ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ得及商標ノ登録ヲ詐稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○議長 只今朗讀シタル第二十條ハ第十九條ト共ニ議題ニ上レリ即チ二十七番ノ第十九條ト第二十條トヲ轉換シ原案第十九條ノ行文ヲ第十六條第十七條第十八條第十九條ノ違犯ニ係ル商標ハ滅却セシムト爲サントスル動議ハ定數ノ賛成者ヲ得タルヲ以テ問題ト爲ス

○四十二番 渡邊 洪基

本官ハ問題說ニ同意スル能ハス原案第二十條ノ犯

罪ハ滅却處分ヲ施ス可キ者ニ非サレハナリ原案第二十條ノ詐僞ノ行爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ得ルハ他ノ違犯ト異ニシテ是レ直接ニ政府ヲ欺罔シ專用權ヲ得タル者ナレハ他ノ專用者ノ商標ニ紛ハシキ商標ヲ使用シタルト同シカラス詐稱ノ行爲ノ如キモ亦未タ登録ヲ經サルニ專用權ヲ有スト詐稱スル者ニシテ同一商標ヲ作爲シテ他人ノ專用權ヲ妨害シタルニ非ス故ニ他ノ正當商標ト抵觸セサル限リハ第十六條第十七條等ノ違犯ノ場合ト同視ス可ラス是ヲ以テ詐僞ノ登録ト登録ノ詐稱トノ制裁ハ宜ク科罰ニ止ムヘク滅却處分ヲ施スハ過嚴ナリ原案第十九條ハ第二讀會ニ於テ本官ノ發議ノ如ク修正シタルモ只今二十七番ノ說ヲ聞キ更ニ熟考ヲ加フルニ沒收物品ヲ損害賠償ニ充ルコトヲ掲クルハ穩安ナラサルヲ覺レリ個ハ是

レ二十七番ノ説ク如ク商標滅却ノ明文ニ止ムルヲ得タリトス但タ
其文字ノ修改ハ未タ當ヲ得サルノミ二十七番ハ第十六條第十七條
第十八條第十九條ノ違反ニ係ル商標ハ滅却セシムト爲サント云フ
モ若シ然セハ本條ヲ適用スル區域甚タ狹隘ニ失セン何トナレハ若
シ此等各條ノ罪犯ノ其偶然ニ出テタル明白ニシテ遂ニ免訴若クハ
無罪放免ト爲ル有ルモ其商標ノ他ト同一又ハ相紛ラハシキ者ハ本
條ニ據テ之ヲ滅却ニ付セサルヲ得サレハナリ斯ノ如キ場合ニ當リ
本條ヲ活用セントセハ原案ノ如ク某條ノ場合ニ於テハ云云スト爲
シ以テ文字ノ意義ヲ廣汎ナラシメサル可ラス是レ本官ノ二十七番
ノ修正説ニ對シテ半ハ之ヲ賛成シ半ハ之ヲ賛成セサル所以ナリ因
テ本官ハ現問題消滅スルヲ待テ第十九條ヲ修正シ第十六條第十

七條第十八條ノ場合ニ於テハ違反ノ商標ヲ滅却セシム但無罪又ハ
免訴ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ同一若クハ紛ラハシキ商標ナルトキ
モ亦同シト爲サント欲ス豫メ此ニ之ヲ陳ス

○四十一番 橋口
兼三

本官モ問題説ニハ同意セス四十二番モ論セル如ク

發議者ハ原案第二十條ノ違反ノ場合ヲモ第十六條第十七條第十八
ノ各條ノ場合ト一括シテ滅却處分ノ部中ニ入ラシム可シト云フモ
詐僞ヲ以テ登録ヲ得タル商標及ヒ專用權ヲ有スト詐稱セル商標ハ
是レ別ニ商標ヲ作爲シ恰モ適法ノ商標ノ如ク使用シ自己ノ利益ヲ
逞ウセント欲スルニ在テ素ヨリ彼ノ同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ
作爲シテ他人ノ商權ヲ剽竊スル目的ニ出ル者ニ非ス故ニ滅却處分
ヲ此ニ施ス可キノ理ナシ蓋シ現問題ハ原案ニ比スレハ稍ヤ簡單ナ

ルモ前陳ノ如キ不是ナル有レハ肯テ同意ヲ表セサルナリ本官ハ尙ホ別ニ修正ノ意見ヲ儲フルヲ以テ試ニ其梗概ヲ論述セン抑モ本案ハ本邦ニ於ル新創法ニ係リ而シテ其精神骨髓ト爲ス所ハ彼ノ專賣免許法ノ如ク一ハヲ商標ノ專用權ヲ保護スルニ存ス故ニ主トシテ他ノ侵犯ヲ防制シ嚴密ニ之ヲ提轄セサル可ラス各位ノ汲汲トシテ論辨スル商標滅却ノ處分ハ犯者ヲシテ其奸曲ヲ再ヒセシメサルニ在レハ其處分モ亦カメテ煩雜ヲ省キ簡單ニ出ルハ固ヨリ當然ナリトス且此犯罪ハ特ニ官府ヲ害スルニ非スシテ其直接ノ被害者ハ登録商標主ニ限ルナレハ犯者ヲシテ自ラ之ヲ滅却セシムルヲ以テ足ル可シ夫レ新ニ法律ヲ制定セントスルヤ固有ノ慣例ニ據リ既定ノ法規ニ準ヒ以テ抵悟ヲ致ササラシムルヲ要スルハ論ヲ俟タス故ニ

本案ノ罰例ノ如キ務メテ刑法ノ條則ニ照遵スルヲ緊要トス正當ノ專用權ヲ侵害セル商標使用者ノ罰例ヲ以テ刑法ノ條則ニ對觀スルニ一適當セスト雖モ其大旨ノ符合スル有リ刑法第四十三條第一項ニ「法律ニ於テ禁制シタル物件」ト言ヘルハ即チ違犯ノ商標ニ該當ス各位中或ハ商品ハ本ト正當物件ナリ違犯ノ商標ヲ附着スルニ因テ始メテ違法物件ト爲ル故ニ之ヲ分離セハ依然正當物件ナリト論スレトモ元來其商標ノ違犯ハ商品ニ根由シ商品ニ利益ヲ獲收スルヲ以テ犯法ノ目的ト爲スカ故ニ決シテ其商品ヲ正當物件ト看ル可ラス然ラハ則チ其商品ハ犯罪物件ニシテ刑法第四十三條第二項ノ「犯罪ノ用ニ供シタル物件」ナル者ニ該當セリト謂フ可シ是レ恰モ偽造寶貨ノ用ニ供シタル器械ト一般ナリ又其賣得金ハ刑法第四十

三條第三項ノ「犯罪ニ因テ得タル物件」ナル者ニ該當ス例之ハ偽造ノ寶貨ヲ以テ兌換シ得タル金銀ハ是レ真正ノ通用貨幣ナルモ即チ犯罪ニ因テ得タル物件タラサルヲ得サルカ如シ其他賭博ノ贏取金ノ如キモ皆是レ此商品ノ賣得金ニ異ナラス是ヲ以テ商標ノミ犯罪ニ關係シ商品ハ正當物件ナリトスルノ謬見タルヤ明瞭ナラン然ルヲ獨リ商標ヲ犯罪物件ト認メ而シテ商品賣得金ヲ沒收ノ外ニ置カハ現行ノ刑法ニ抵觸スルヲ奈何セン賣藥規則煙草稅則船稅規則牛馬賣買規則等ニ物品沒收ノ例ヲ掲クルハ直接ニ官府ニ損害ヲ及ホス者ニシテ本案ノ人民相互ノ間ニ損害ヲ致ス者ト本ト相異ナル可キモ本官ノ第二讀會以來援引セル出版條例ハ最モ本案ノ例ニ適中スル者トス凡ソ版權ハ著述者編纂者等多年刻苦シテ有益ノ書籍ヲ世

ニ公ニスル報酬トシテ許可スル者ニシテ商標ニ專用權ヲ與フルト其旨趣釐モ異ナル無シ而シテ出版條例ヲ按スルニ他人若シ版權ヲ侵害スル有ラハ條例ハ直ニ其犯者ヲ罰責シ刻本刻版及ヒ賣得金ヲ沒收シ以テ被害者ニ給付ス斯ノ如ク本案ノ據テ以テ模範ト爲ス可キ既成ノ法律既ニ然ルナレハ本案豈漫ニ之ヲ捨ルヲ得ンヤ且夫レ版權ノ侵害ニ生スル損失ハ直接ニ官府ニ在ラスシテ版權所有者ニ在リ之レト同ク商標ノ侵害ニ生スル損失モ亦商標專用者ニ在ルハ明亮ナリ是ヲ以テ其沒收セシ賣得金ヲ被害者ニ給付スルハ理ノ當ニ然ルヘキ所トス然ルヲ若シ現問題ノ如ク單ニ商標ヲ滅却スルニ止メ被害者ノ損失ハ敢テ顧慮セストスルハ苛酷ナラスヤ因テ本官ハ仍ホ第二讀會ニ主張セシ持論ノ動ス可ラサルヲ信ス論者或ハ云

ハン商標主ハ縱使損失ヲ被フルモ要償ノ私訴ヲ以テ之ヲ償フコトヲ得ヘシト是レ實際ヲ知ラサルノ論ナリ抑モ第十六第十七第十八等ノ各條ニ對スル犯者ハ最初ヨリ其所爲ノ惡事タルヲ知ルノミナラス他人ノ利益ヲ偷マント謀ルニ出レハ被害者ノ要償ヲ訴フルモ之ニ應スル資産ヲ有セサルハ勿論ナリ假令多少ノ資産ヲ有スルモ豫メ警官ヲ派シテ差押處分ヲ行フニ當テハ既ニ盡ク之ヲ隱匿ス故ニ裁判ヲ執行シ身代限處分ヲ施スモ只空ク粗惡ノ器具一二品ヲ餘スノミスノ如ク奸智日ニ長スル今日ニ在テハ商標滅却ノ處分ヲ以テ被害者ノ損失ヲ償フ能ハサルノミナラス訴訟ヲ起セル爲メニ却テ損失ヲ重ヌルニ至ル豈深ク憂フ可キニ非スヤ前陳セル如ク商品及ヒ賣得金ハ恰モ違犯物件タラサル如キ看ヲ爲スモ是レ決シテ正

當ナル無疵ノ物件ト爲スヲ得ス何トナレハ違犯ノ商標ノ根元ト爲リ目的ト爲ル者ナレハナリ凡ソ商品ハ犯罪ノ用ニ供セシ物件ナルニ仍ホ公然ニ世人ノ賣買授受シ得ル者ト爲セハ則チ是レ偽造寶貨ニ使用セシ器具モ亦自在ニ賣買授受シ得ル者ナリト云フニ異ナラス故ニ苟モ直接ニ犯罪ニ關涉シタル物件ハ違犯ノ商標ト別視ス可ラス而シテ賣得金モ亦賭博ニ因テ得タル金錢及ヒ偽造ニ成レル貨幣ヲ以テ兌換シタル金錢ト一般ナルノミ到底之ヲ不問ニ付ス可ラサルナリ然ラハ則チ商品及ヒ賣得金ハ商標ト俱ニ沒收シ以テ被害者ニ給付スルハ其道理ニ合シ實際ニ便ナル蓋シ争フ可ラス本官ハ此意ヲ以テ本條ニ修正セント欲スレハ今日ト雖モ尙ホ第二讀會以來ノ持論ヲ固執シ敢テ一步ヲ動カサルヲ自誓ス

○四十四番

三浦安

問題説ハ頗ル複雑ナルニ今又四十二番四十一番ノ

豫陳セル所アリ實ニ第二讀會ニ消滅シタル修正説ト同一意味ノ修正説ノ陸續トシテ第三讀會ニ起發シ各位ノ意想モ種種ニ變化スルハ畢竟新創ノ法案ナルカ故ナリ本官モ附則ニ對シテハ大ニ修正ノ意見ヲ有スルモ本條ニ關シテハ其孰レヲ賛成シテ可ナルヤ意想ノ紛雜セルヲ以テ實ニ適從スル所ニ苦シム思フニ各位モ同感ナラン若シ此ノ如キ事情アルニ關セス倉卒ニ議了セハ遂ニ噬臍ノ憾ヲ免レサル可シ故ヲ以テ本日ハ議ヲ此ニ止メ而シテ充分ニ考究ヲ加フル餘暇ヲ與へ來ル月曜日即チ五日ヲ以テ開會セハ蓋シ好結果ヲ見ルヲ得ン因テ延會センコトヲ建議ス

○番二番

黒田綱彦

四十四番ハ延會ヲ建議セルモ本員ハ仍ホ相續キ議了

センコトヲ希望ス既ニ第二十條ニ議到セルヲ以テ本案ノ精神骨子ト爲ス條項ハ率子既ニ議決シ餘ス所ハ僅僅ノミ四十四番ノ言ヘル如ク本案ハ新創ノ法案ナレハ潛心熟慮ヲ要スルハ論ヲ埃タスト雖モ既ニ本年二月十五日ニ本案ヲ下付セラレタル以來此ニ七十餘日ヲ經過セリ蓋シ一日二日ヲ爭フ要急ノ法案ニハ非サレトモ内閣ハ六七月ノ交ヲ以テ發布セント欲スルナレハ主務省ニ於テモ豫メ之カ準備ヲ爲ササル可ラス幸ニ此意ヲ諒シテ議決ヲ速ニセンコトヲ希望スルナリ本員ハ問題説ニ對シ一辨セント欲スルモ既ニ四十二番ノ論述ニ於テ吾カ言ハント欲スル所ヲ悉セル有リ元來原案第二十條即チ詐僞ノ登録及ヒ登録ノ詐稱ハ直接ニ官府ニ對スル犯罪ニシテ沒收ノ例ヲ用ヒサルコトハ既ニ付託委員選定ノ際ニ當テ詳カ

ニ之ヲ陳辨シタリ要スルニ第二十條ノ犯罪ノ場合ハ一旦處罰ヲ經テ其商標ヲ廢棄シ若クハ官許ノ文字ヲ撤除スルヤ專用權ハ之ヲ施用スルヲ得スト雖モ單ニ其商品ヲ販賣スルハ敢テ禁スル所ニ非ス而シテ若シ其專用權ヲ得有セント欲セハ則チ改メテ登録ヲ出願スルヲ得ヘシ是レ此第二十條ノ沒收處分ノ部内ニ入ラサル所以ナリ到底二十七番ノ修正說ハ內閣ノ主旨ニ反對スレハ本員ハ厭マテ之ヲ辨排セサルコトヲ得サルナリ

○議長 四十四番ノ建議ハ其理由ハ聞クヲ得タリ然ルニ本案ハ其下付以來既ニ數多ノ日子ヲ經過シ屢、內閣ノ督促ヲ受タルハ蓋シ他ニ急施ヲ要スル議案アルカ爲メナリ因テ延會スル可否ヲ議場ニ問ハント欲ス即チ延會ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ延會ニ決シ本日ハ議ヲ此ニ止メ來ル六日即チ火曜日ヲ以テ開會セン散會セヨ

午後第二時三十分閉場

○議案第二十三號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第二十四號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第二十五號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第二十六號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第二十七號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第二十八號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第二十九號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第三十號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第三十一號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第三十二號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第三十三號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第三十四號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第三十五號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第三十六號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第三十七號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第三十八號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第三十九號 關於商標條例第三讀會ノ續會
○議案第四十號 關於商標條例第三讀會ノ續會

元老院會議筆記 明治十七年五月六日

○第四百三十一號議案 商標條例第三讀會ノ續會 五月二日

議長 東久世 通禧

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 柴原 和 |
| 七番 | 本田 親雄 |
| 十三番 | 野村 素介 |
| 十五番 | 關口 隆吉 |
| 十六番 | 福原 實 |
| 十七番 | 大久保一翁 |
| 十八番 | 林 友幸 |

- 十九番 上杉 茂憲
- 二十番 宮本 小一
- 二十二番 西 周
- 二十三番 神山 郡廉
- 二十五番 鍋島 直彬
- 二十六番 西村 貞陽
- 二十九番 津田 眞道
- 三十番 榎村 正直
- 三十二番 大鳥 圭介
- 三十三番 神田 孝平
- 三十四番 河田 景與

午前第九時五分開場

内閣委員 二番 参事院議官補 黒田 綱彦

三十六番 渡邊 清

四十番 伊集院兼寛

四十一番 橋口 兼三

四十二番 渡邊 洪基

四十四番 三浦 安

○議長 本日ハ第四百三十一號議案第三讀會ノ續會ヲ開ク特ニ前會ニ缺席セル議官ニ告ン第十九條第二十條ニ關連セル二十七番ノ動議正ニ問題ニ上レリ其修正文案ハ第十九條ト第二十條トノ位地ヲ轉換シ原案第十九條ヲ第十六條第十七條第十八條第十九條ノ違犯

ニ係ル商標ハ滅却スト爲スニ在リ各位之ヲ領シ例ニ遵ヒ發議セヨ

○三十二番 大鳥圭介 本官ハ別ニ意見ヲ有スルヲ以テ現問題ニ同意セス

四十二番ハ既ニ一ノ修正說ヲ豫陳シタレハ若シ現問題消滅セハ必
ス之ヲ提出ス可キモ本官ノ修正說ハ稍ヤ旨趣ヲ異ニスルヲ以テ豫

メ爰ニ之ヲ陳ン是レ幾ント二十七番ノ問題說ト四十二番ノ豫陳說
トヲ折衷セル者ノ如シ即チ原案第十九條ヲ修改シ「第十六條第十七

條第十八條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ滅却セシム」ト爲スニ在リ
但シ問題說ノ如ク詐偽ノ登録及ヒ登録ノ詐稱ニ本條ノ制裁ヲ施ス

ニ非ス又四十二番ノ豫陳說ノ如ク但書ヲ加フルニ非サルナリ四十
二番ハ免訴若クハ無罪放免ノ場合ニ於テモ尙ホ滅却處分ヲ科セン

爲メニ但書ヲ加フルナル可キモ是レ敢テ望慮ヲ要セス何トナレハ

裁判官ノ無罪ト認ムル場合ノ如キ其所爲必ス無意偶然ニ發シタル

者ナル可シ若シ果シテ有意故爲ニ非ストセハ本人自ラ其商標ヲ改
ム可ク裁判官モ亦之ヲ改ム可キヲ命スルハ必然ナリ畢竟此ノ如キ

ハ頗ル稀有ノ事ニ係リ敢テ特ニ明文ヲ以テ之ヲ揭示スルヲ要セス
出席 四十三番 田邊 太一

同 三十一番 津田 出
同 二十七番 箕作 麟祥

○四十四番 三浦安 本官モ本條ニ對シ意見ヲ有スルヲ以テ問題說ニ同
意セス聊カ以テ各位ニ豫告ス

○二十七番 箕作麟祥 本日ハ參場遲延セル爲メニ各位ノ明論ヲ聞ヲ得サ
リシハ遺憾ナリ前會ニ四十四番ノ特別ニ建議シ因テ其會議ヲ本日

ニ延ハタルハ大ニ本官ノ幸福ト爲レリ其所以ハ本官ノ提出セシ間
 題說ニ對シ駁說紛出シテ止マサルヲ以テ更ニ自ラ熟考セシニ果シ
 テ原案第二十條ヲ以テ第十七條第十八條等ト制裁ヲ同ウセシムル
 ノ不可ナルヲ發見セリ本官ノ倉卒ナル考案ヲ吐出セシヨリ各位ヲ
 シテ空ク幾多ノ論辨ヲ費サシメタルハ深ク羞謝スル所ナリ各位幸
 ニ之ヲ恕セヨ因テ更ニ本官ノ提出シタル修正說ヲ收銷センコトヲ
 請求ス若シ幸ニ收銷スルコトヲ得ハ別ニ修正說ヲ提出シ第十九條
 ヲ「第十六條第十七條第十八條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ滅却セ
 シム」ト爲サント欲ス本條ノ「仍ホ」ノ二字ヲ削リシハ若シ之ヲ存ス
 レハ商標滅却ノ處分ハ宛モ附加刑ノ看ヲ呈スル嫌ヒ有リ若シ果シ
 テ附加刑ト看ハ違犯ノ商標ノ見ニ第十六條以下ノ罰例ニ觸ルルニ

非サルヨリハ滅却處分ヲ施ス可ラス然ルニ此滅却處分タル其所爲
 ノ全ク無意偶然ニ發シ無罪若クハ免訴ニ付スル場合ニモ亦之ヲ適
 施セサル可ラサレハ「仍ホ」ノ文字ヲ削リテ此嫌ヲ避ルニ如カス請
 フ此說ヲ以テ前說ニ換ヘ第二十條ハ本案ノ如クセンコトヲ

出席

四番

黒田

清綱

同

二十八番

楠本

正隆

○三十番 榎村 正直

本官ハ前會ニ於テ二十七番ヲ賛成セシモ發議者ト同
 シク其不妥ナルヲ覺知シタレハ前會ノ賛成ヲ收銷シ豫陳說ノ提出

○ヲ俟テ更ニ賛成ヲ表セントス

○三十二番 大鳥 圭介

二十七番ノ問題說ハ第十九條ト第二十條トヲ轉換
 スルニ涉リ本官ノ同意セサル所ナリシモ只今改テ陳述セル豫陳說

ハ本官ノ腹稿ト暗合スルヲ以テ該説提出アラハ賛成センコトヲ豫

陳ス

○十八番 林友幸 本官モ賛成者ノ一人ナリシカ三十二番ト同ク現問題

ノ收銷ニ同意シ更ニ豫陳説ニ賛成セントス

○三十番 出席

九番 細川潤次郎

○二十六番 西村貞陽 本官モ三十二番十八番等ト同感ナレハ此ニ其意ヲ

白ス

○二十番 宮本小一 二十七番ノ豫陳説ヲ賛成ス

○議長 現問題ハ發議者并ニ賛成者ヨリ收銷ヲ請求セリ然ルニ既ニ
議場ノ問題ニ上リタルヲ以テ漫然ニ收銷ヲ許ス可キニ非サレハ其
許否ヲ滿場ノ起立ニ問ハン即チ收銷ヲ許スニ同意スル者ハ起立セ

ヨ

起立者二十一人

○議長 多數ナルヲ以テ收銷ヲ許スニ決ス

○四十二番 渡邊洪基 只今二十七番ノ豫陳セシ修正説ハ本官ノ前會ニ豫

陳セシ者ト其大旨ヲ同ウス只其異ナルハ但書ヲ加フルニ在ルノミ
議場ノ景況ヲ察シ且更ニ事宜ヲ考フルニ本案ハ創制ノ際ニ係ルヲ
以テ但書ノ如キ細微ナル點ニ及ハサルモ可ナリ故ニ本官ノ豫陳説
ヲ收銷シ二十七番ノ發言ヲ俟テ更ニ之ヲ賛成セントス

○二十七番 箕作麟祥 本官ノ將ニ提出セントスル修正説ハ宛モ四十二番

ノ豫陳説ヲ剽竊セシ者ノ如クナレトモ四十二番ハ既ニ其説ヲ收銷
セシヲ以テ今改テ豫陳セシ修正説ヲ提出ス幸ニ其問題ト爲ランコ

トヲ希望ス

○二十五番 鍋島直彬 本官ハ二十七番ノ前説ヲ可認セシモ既ニ之ヲ收銷

セル以上ハ復タ奈何ントモスル能ハス實ニ發議者ノ言フ如ク仍

ホノ文字ヲ存セハ滅却處分ハ附加刑ト爲ル嫌ヒ有リ故ニ滅却セ

ムト爲シテ其處分ヲ犯者ト被害者トノ間ニ委シ以テ官府ノ煩勞ヲ

省クハ頗ル簡便ノ方法ナリ因テ更ニ二十七番ヲ賛成ス

○四十二番 渡邊洪基 賛成

○三十番 榎村正直 賛成

○十八番 林友幸 賛成

○三十二番 大鳥圭介 賛成

○二十六番 西村貞陽 賛成

○二十番 宮本小一 賛成

○議長 二十七番ノ修正説ハ定數以上ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○四十四番 三浦安 本官ハ過刻別ニ意見ヲ蓄フルヲ以テ二十七番ニ賛

同セスト陳述セシハ第十九條ト第二十條ヲ轉換スルノ妥當ナラサ

ルノミナラス滅却ノ文字ノ適實ナラサルヲ以テナリ然レトモ今之

ヲ熟考スルニ他ニ換フ可キ好文字ヲ得サレハ滅却ノ文字モ亦已ム

ヲ得ス且夫レ現問題ハ既ニ第二十條ノ犯罪ニ第十九條ノ制裁ヲ施

スヲ止メ滅却處分ヲモ亦附加刑タル看ヲ脱セシメタレハ其大旨タ

ル本官ノ意見ト大差ヲ存セサルヲ以テ更ニ賛成ヲ表ス

○外二番 黒田綱彦 問題説ハ頗ル簡單ニシテ其意義甚タ明亮ナルモ聊カ

○一言ヲ述ヘテ各位ノ參考ニ供セン發議者并ニ賛成者ハ滅却處分即チ原案ノ沒收處分ハ附加刑ニ非スト斷言セリ然ルニ沒收處分ノ如キ凡ソ罰例ニ附隨スル者ハ皆是レ附加刑ニ非サル無シ既ニ刑法ノ總則ニモ此刑名ヲ掲ケ其他ノ條例ニモ亦屢見ル所トス然ラハ則チ何ソ獨リ本案ノミ其滅却處分ヲ附加刑ニ非スト謂フ可ケンヤ論者ノ言ノ如ク附加刑ニ非ストセハ即チ一ノ行政處分タルニ外ナラス然レトモ若シ之ヲ以テ行政處分トセハ裁判官ハ其料理ニ惑ハントス且夫レ滅却ノ文字ハ設使條約文ニ使用スル有ルモ法律文ニ明掲スルハ本案ヲ以テ創始ト爲ス故ニ之ヲ奉スル人民ヲシテ或ハ多少ノ疑惑ヲ懷カシムル無キヲ保セサレトモ之ヲ以テ前修正說ニ比スレハ此レ稍ヤ彼ヨリモ善シトス故ニ本員復タ抗辨セサル可キナリ

出席 三十五番 海江田信義

○議長 二十七番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ二十七番ノ修正說ニ決ス且告ク第二十條ハ既ニ第十九條ト連帶シテ朗讀シタレハ直ニ第二十一條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

○第二十一條 第六條第七條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○第二十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
第二十三條 第十六條ヨリ第十八條ニ至ルノ罪ハ登録商標主ノ告

訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十四條 登録商標主告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ

其告訴ニ係ル商標ヲ付^附シタル商品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

附則

本條例頒布以前使用スル商標ヲ専用セント欲スル者ハ本條例施行ノ日ヨリ滿六ヶ月間ニ於テ其登録ヲ願出ツ可シ其願書ハ本條例施行ノ日ヨリ滿八ヶ月間之ヲ留置其間ニ之ト抵觸ス可キ願書到達セサレハ之ヲ登録ス可シ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

若シ二人以上同一又ハ相紛^ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ用^專ヒンカ爲メ登録ヲ願出ツル者アルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラス農商務卿ニ於テ其商標ノ使用最久シキト認定スルモノヲ登録シテ其他ヲ却下ス可シ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

本條例第三條ニ從ヒ本條例施行ノ日ヨリ滿六ヶ月間ニ願出ツルモノニシテ附則第一項ノ願書ニ抵觸スルトキハ其日附ノ前後ニ拘ハラス之ヲ却下ス可シ其既ニ登録ヲ經タルモノハ無効ニ歸シ其登録證ヲ返納セシム可シ

○四十四番三浦安 本項ヲ修正セン第二讀會ニ當リ四十三番ハ本則ノ第四項ニ對シテ修正說ヲ提出シ凡ソ止タ願書ヲ却下スル場合ノミナラス登録證ヲ返納セシムル場合ト雖モ其登録ス可ラサル者ヲ登録シタルハ是レ主務官衙ノ粗漏ニ出タルナレハ手數料ハ返付セサル可ラサルト主張セリ其旨趣頗ル可ナルモ本官ノ之ニ同意ヲ表セサリシ所以ハ一旦登録ヲ經ハ官衙ハ爲メニ多少ノ勞費ヲ要シ且更

ニ取消ヲ爲スニモ亦必ス勞費ヲ要スレハナリ因テ本官ハ此憂フ可キコトヲ存センヨリ寧ロ其粗漏ヲ來ス根源ヲ塞クニ如カスト思考ス故ヲ以テ本項ヲ修正シ本條例第四條ニ依リ處分ス可キ願書モ本條例施行ノ日ヨリ八ヶ月間之ヲ留置附則第一項ニ依リ願出ツル者ニ抵觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラス之ヲ却下ス可シト爲サント欲ス請フ其理由ヲ陳セン凡ソ新ニ出願スル者ニシテ之ヲ八月間留置スレハ附則ニ遵フテ本條例施行ノ日ヨリ六月間ニ出願スル者ノ期限ヲ經過シテ尙ホ二月ヲ餘ス可キヲ以テ此間其抵觸スル有ルト否トハ自ラ分明ニ之ヲ知ル可シ是ニ於テカ順次ニ登録ヲ爲シ同一ノ者ニ遇フヤ願書日附ノ前後ニ拘ラス其新規ニ係ル者ヲ却下スト爲セハ主務官衙ノ料理ニ粗漏ヲ生セス又前後ノ登録ニ抵

觸ヲ致サス遂ニ其手數料ノ無効ニ陷ル等ノ失當ヲ免レシメントス
因テ此修正說ヲ提出ス

○三十番 榎村 正直 賛成

○四十三番 田邊 太一 本官ノ第二讀會ニ第四項ニ對スル修正說ヲ提出シ
タルハ主務官衙ノ粗漏ヨリシテ登録ヲ無効ニ歸シ登録證ヲ返納セ
シメタルニ尙ホ手數料ヲ返付セサルハ甚タ苛酷ナリト認メシニ由
レリ然ルニ只今四十四番ノ提出セル修正說ハ本官ノ憂慮スル誤錯
ヲ避ケシムルニ在レハ欣ンテ之ヲ賛成ス

○十八番 林友 幸 賛成

○二十七番 箕作 麟祥 賛成

○二十三番 神田 孝平 賛成

○議長 四十四番ノ修正說ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○四十二番 渡邊 洪基 問題說ハ頗ル理由ニ富メルモ本官尙ホ熟考スルニ

本項ハ實ニ無要ノ條項ナレハ全ク削除スルニ如カスト信ス現問題
ハ「附則第一項ニ依リ願出ツル者ニ抵觸スルトキハ」云云ト爲セト
モ元來其抵觸スル者ハ出願スルヲ得サルハ第六條四項ノ明文ニ因
テ明白ナリ且ヤ第六條四項ニ於テ「現ニ使用者アル」云云ト言ヘル
ヲ以テ之ヲ觀レハ從來ノ慣用者ニ於テ數年間休業セルトキハ他人
ハ直ニ登録ヲ得ヘケレハ此場合ニ於テハ從來慣用セル一事ヲ以テ
口實ト爲ス能ハサルハ明瞭ナリ故ニ全ク現ニ使用セル者ナラハ之
ヲ以テ專用者ト爲シ其新出願者ヲ却ク可キハ又既ニ明瞭ナリトス
然ラハ則チ第一項第二項ヲ存セハ足ル可シ到底本項ノ如キハ却テ

鄭寧ニ過キテ重複ニ陥ルノ恐レ無キ能ハス且ヤ本條ヲ存シテ八月間留置シ爾後若シ他ニ抵觸スル者ノ出ル有ラハ則チ之ヲ無効ト爲シテ以テ却下セサル可ラス是レ出願者ヲシテ本項ノ存スル爲メニ却テ不幸ヲ被ラシムルノ憾ミ有ラン因テ本官ハ本項并ニ末項ヲ削除シ以テ此失當ヲ避ケント欲スルノミ聊カ豫メ之ヲ陳述ス

○番二番 黒田 網彦 四十四番ノ問題說ニ對シテハ一辨ヲ呈セサルヲ得ス四十四番ノ說ノ如クセハ第四條ニ從フテ新ニ出願スル者ト雖モ八月間ヲ待ツニ非サレハ則チ其許否ヲ知ル可ラス是レ出願者ノ大ニ困却スル所ナラン元來内閣ノ豫畫セル所ハ本案發布ノ日ヨリ六月ヲ經テ後ニ實施セント欲スルナレハ其實行以後更ニ八月間留置スルトセハ本案發布ノ日ヨリ一年二月ノ日時ヲ待タサル可ラス然ラ

ハ則チ急ニ登録ヲ得ント望ムモ到底其効益ヲ見ス且夫レ本項ニ該ル者ハ極テ稀ニシテ若シ一旦本案ヲ發布スルヤ六月間ニハ從來現ニ使用スル者ノ如キ日ヲ逐フテ出願シ復タ躊躇セサル可キヲ信ス問題說ノ如ク八月間其願書ヲ留置セハ或ハ主務官衙ノ粗漏等ハ防制シ得ヘキモ大ニ内閣ノ旨趣ニ異ナルニ因リ一言以テ各官ノ參考ニ供ス又四十二番ノ豫陳說ニモ一辨ヲ呈セント要スレトモ彼此混雜ノ恐レ有ルヲ以テ姑ク其提出ノ時ヲ待タントス且陳フ第十三條ニ規定スル所ヲ觀ルニ一旦登録ヲ經タル以後第六條ニ抵觸スル者タルコトヲ發見セハ忽チ無効ニ歸スト爲セリ即チ地名又ハ内外國ノ旗章ヲ以テ商標ト爲ス如キ是ナリ畢竟第十三條ハ自ラ本項ト對比シテ立存スル者ノ如シ本項ハ第二讀會ニハ異議ナク經過セシニ

今ニ至テ議論ノ紛出スルハ本員大ニ怪マサルヲ得ス却テ説ク四十番ノ修正説タル理論ノ極點ニ涉リ考察セハ或ハ此感ヲ生ス可キモ實際絶無ノコトト云フモ可ナリ此ノ如ク稀有ナル場合ニ備ヘントセハ復タ之ヲ立存スルノ優レルニ如カス因テ聊カ此ニ補陳ス

○四十四番^{三浦安} 番外二番ハ本條例ノ發布ヨリ實施ニ至ルニハ六月ノ時間ヲ存スト論スレトモ其實施ノ遲速ハ固ヨリ内閣ノ意度ニ在レハ自在ニ伸縮スルヲ得ン是レ故サラニ附則ニ關シテ論及ス可キニ非ス又八月間ヲ待ツハ甚タ永キニ失スト云フモ既ニ頒布以前ヨリ使用セシ商標ノ専用ヲ出願スル場合ハ附則第一項ニ明記スル如ク是亦八月間之ヲ留置スルニ非スヤ然ルニ新規ノ出願ニ限り直ニ登録ヲ許スハ却テ誤錯ノ端ヲ啓ク者ト謂フ可シ是ヲ以テ本項ノ場

合ニ於テハ八月間留置シ其誤錯ノ不便ヲ除カント欲スルナリ且今起立ノ次ニ一言ス可キ有リ向キニ陳述セル修正文中ニ處分ス可キ願書モト云ヒシモ是レ改テ願書ト雖トモト爲サント欲ス此修改ヲ加フルコトヲ議長ニ請ヒ併テ之ヲ賛成各位ニ告ク

○二十二番^{箕作麟祥} 四十四番ノ修改ハ最モ當レリ第四條ニハ「願書ノ日附ヨリ二ヶ月云々」ト言ヘハ本項ハ願書ト雖トモト改ムルニ如カス因テ更ニ之ヲ賛成ス

○議長 現問題ノ決ヲ取ルニ先タチテ各位ニ告ク各位ノ既ニ聞ク如ク「願書」ノ文字ノ下モヲト雖トモト修改セリ即チ四十四番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ四十四番ノ修正説ニ決ス

書記官 森山 茂 朗讀

附則第二項第三項ノ場合ニ於テ願書ヲ却下スルトキハ其手数料ヲ返付ス

○四十二番 渡邊 洪基 第三項ノ既ニ修正ニ決シタル以上ハ登録ノ誤錯ニ

出テ登録證ヲ返納セシムル如キコト無ル可キヲ以テ本項ハ既ニ無要ニ屬セリ且ヤ第二項第三項ノ場合ト摘指セハ他ノ場合ハ悉ク之ニ反對スルニ嫌ヒ有リ斷然削除スルニ如カス因テ此修正説ヲ提出ス

○三十番 榎村 正直 賛成

○四十番 伊集院 兼寛 賛成

○九番 細川 潤次郎 賛成

○二十六番 西村 貞陽 賛成

○議長 四十二番ノ削除説ハ賛成者ノ定數ニ満たサルヲ以テ消滅ス

○二十七番 箕作 麟祥 四十二番ノ前説ハ其理ナキニ非サレトモ本則ハ永

遠ニ施行シ附則ハ一時施行スルニ止マレハ手数料返付ノコトヲ此ニ掲クルハ要用ナキニ非ス然レトモ原案ノ如クシテハ未タ妥當ナラサルヲ以テ本官ハ「附則第一項第二項」ナル文字ヲ削リ前二項ノ場合ト修正セントス試ニ之ヲ提出ス

○四十二番 渡邊 洪基 二十七番ノ言ノ如クセハ大ニ明瞭ナルヲ得ン因テ

賛成ス

○四十三番 田邊 太一 賛成

○三十三番 神田孝平 賛成

○十八番 林友幸 賛成

○二十番 宮本小一 賛成

○三十二番 大鳥圭介 賛成

○議長 二十七番ノ削除説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外二番 黒田綱彦 二十七番ノ説ノ如ク「前二項」ト修正スルモ之カ解釋ニ至テハ原案ノ文字ト些モ異點アルヲ見ス却テ「附則第一項第二

項」ト爲スノ明白ナルニ如カス且既ニ成立セル四十四番ノ第三項ニ

對スル修正文中ニモ「附則第一項ニ依リ」ノ文字ヲ掲ケタレハ彼此

文例ヲ一ニスルノ便宜アレハ敢テ之ヲ改ムル無ク全ク原案ニ仍ン

コトヲ希望ス

○二十七番 箕作麟祥 番外ノ言ノ如ク原案ノ如クスルモ將タ修正ノ如ク

スルモ其意義ノ異ナル無シハ寧ロ修正ノ如クスルヲ可トス何トナ

レハ故サヲニ「附則第一項第二項」ト爲サハ少シク濶大ニ過ルニ嫌

ヒ有レハナリ且ヤ番外ハ第三項ニ同一ノ文例ヲ掲クト云フモ個ハ

是レ第三項ヨリ一項ヲ隔テ、第一項ヲ指スナレハ前項ノ文字ヲ用

フルヲ得サルナリ然ルニ本項ハ直ニ前項及ヒ前前項ヲ指示スルナ

レハ其不便ヲ見サルヲ以テ前二項ト掲クルノ穩安ナルニ如カサル

ナリ

○四十四番 三浦安 問題説ニ賛同ス第三項ノ場合ニハ冒頭ニ「本條例第

四條ニ依リ」ト掲出セシヲ以テ此文字ヲ支承スルニハ勢ヒ「附則第

一項」ナル文字ヲ用ヒサル可ラス是レ本項ト例ヲ一ニスル能ハサル

所以ナリ

○一番柴原和

本項ニ於テ「附則」ナル文字ヲ掲グルハ其要ヲ見サレト

モ若シ「前二項」ト爲サハ或ハ第二項ヲ指スヤノ疑惑ヲ來ス無キヲ保セス故ニ未タ賛成スル能ハス但シ「前第一項第三項」ト爲ス如キ

○議長 發議既ニ盡キタレハ決ヲ取ラン即チ二十七番ノ修正ニ同意

スル者ハ起立セヨ
起立者十七人

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ二十七番ノ修正說ニ決シ此ニ第三讀會ヲ畢ル第三讀會ニ於テ修正ヲ加ヘタル條項頗ル多キニ因リ第三讀會ヲ以テ確定決議會ト看做ス可キヤ否ヤノ決ヲ取ラン即チ第三讀會ヲ

確決會ト看做スニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ確決會ト看做スニ決シ本案修正ノ理由ヲ具シ例ニ準ヒ上奏セン各位散會セヨ

午前第十時四十分閉場

元老院會議筆記 明治十七年三月二十七日

○第四百三十二號議案 船舶積量測度第一第二第三讀會

議長 佐野常民

出席議員

二番 渡邊 洪基

三番 東久世通禧

八番 井田 讓

九番 神田 孝平

十二番 榎村 正直

十三番 大久保一翁

十四番 田邊 太一

十七番	福原 實
十九番	河田 景與
二十番	林 友幸
二十四番	大鳥 圭介
二十五番	西村 貞陽
二十六番	野村 素介
二十七番	渡邊 清
二十八番	箕作 麟祥
三十番	柴原 和
三十一番	上杉 茂憲
三十二番	鷺尾 隆聚

午前第九時四十五分開場

内閣委員 二番外 参事院員外議官補 塚原 周造
三番外 参事院議官補 黑田 綱彦

三十五番	鍋島 直彬
三十六番	細川潤次郎
三十七番	津田 眞道
三十九番	伊集院兼寛
四十番	三浦 安
四十一番	西 周
四十二番	長岡 護美
四十五番	神山 郡廉

○議長 本日ハ第四百三十二號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ
後ニ例ニ遵ヒ發議セヨ

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

船舶積量測度規則別紙ノ通制定シ明治 年 月 日ヨリ之ヲ施
行ス

右奉 勅旨布告候事

船舶積量測度規則

第一條 凡ソ船舶海軍艦船ヲ除クノ積量ハ此規則ニ依リ測度スル者トス
第二條 船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位

トシ其尺度ハ分位ニ止ムヘシ

第三條 西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ日本形船ノ積
量ハ十立方尺ヲ以テ一石トス

第四條 西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量噸甲板ト
シ二層ノ者ハ其上層ヲ以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下
ヨリ第二層ニアル者ヲ以テ量噸甲板トス

第五條 西洋形船ニシテ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ
噸數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トシ又
甲板三層以上ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ
噸數及ヒ最上甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス
甲板ナキ者ハ舷端以下ノ噸數ヲ以テ該船ノ總噸數トシ又舷端以

上ニ船室アレハ其噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

第六條 汽船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室及ヒ機關室ノ

噸數ヲ除キタル者トス

帆船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室ノ噸數ヲ除キタル者

トス

第七條 乗組人常用室トシテ除クヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ六ト

ス

第八條 機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ左ノ如シ

外車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテハ

總噸數ノ百分ノ三十七

暗車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ十三ヨリ二十マテハ

總噸數ノ百分ノ三十二

機關室ノ廣狹ニ依リ前項ノ割合ニ適セサル者ハ該室ノ噸數ニ外

車汽船ナレハ其二分ノ一ヲ加ヘ暗車汽船ナレハ其四分ノ三ヲ加

ヘタル者トス

第九條 日本形回漕船ハ船梁上下船艙ノ石數ヲ以テ該船ノ積石ト

シ又其構造回漕船ニ異ナル者ハ舷端以下ノ石數ヲ以テ該船ノ積

石トス

第十條 船舶ノ噸數及ヒ積石測度ノ方法ハ布達ヲ以テ之ヲ定ムヘ

シ

○外三番 黒田 網彦 本案ノ發布ヲ要スル理由ヲ畧陳セン抑モ船舶ノ測度

ニ關スル規則ヲ發布セルハ明治四年十二月大藏省ヨリ各府縣ニ公

達シタル噸數改方法則ヲ以テ始ト爲ス當時ニ在テハ此一達書ヲ以テ足レリト爲セシモ爾來汽船其他ノ船舶ノ漸ク數ヲ増スニ隨ヒ大ニ支障ヲ生セリ且ヤ噸稅ノ如キ其測度方法ノ整備スルト否ヲサルトニ因テ甚シキ異同ヲ生スル者ナレハ固ヨリ主務省ノ一達書ヲ以テ規定シ得ヘキニ非ス是レ本案ノ制定ヲ要スル所以ナリ仍ホ其詳細ノ理由ニ至テハ番外二番之ヲ陳辨セン

○二十八番築作麟祥 本案ノ理由ハ番外三番ノ説明ノ如ク船舶ノ噸數石數ヲ測度スル方法ヲ規定スルニ在リテ固ヨリ法律ニ於テス可キ者ナリ因テ本官全ク之ヲ贊成ス蓋シ其測度方法ノ實際如何ニ於テハ素ヨリ知ラサル所ナレトモ既ニ主務省ノ規定セルナレハ其完全ナルハ信シテ疑ハス且船舶ノ噸數ハ歐米諸國ハ之ヲ同ウセルニ獨リ

我邦ノミ之ヲ異ニス可ラサルハ亦信シテ疑ハス但タ其石數ニ至テハ素ト是レ本邦固有ノ名稱ニシテ他ノ外國ノ無キ所ナレハ其我邦ノ慣習ニ依テ以テ宜キヲ制セシナル可シ然リ而モ噸數ハ萬國公法上ニ於テ重要ノ關係ヲ有スル者ナレハ恐ラクハ各國皆其比例ヲ均一ニセルナラン故ニ我邦ノ之ヲ規定スルモ亦必ス其比例ニ據ラサル可ラス前ニ番外三番ノ説明ハ少シク簡畧ニ過キタルヲ以テ尙ホ一回ノ辨明ヲ煩サンコトヲ望ム

○番外二番塚原周造 二十八番ニ答ヘン船舶ノ噸數ノ外國ト比例ヲ同ウセサル可ラサルハ實ニ其言ノ如シ抑モ英國ニ於ル一噸ノ積量ハ通常ノ物件ニハ四十立方「フヒート」ト爲スト雖モ船舶ニハ百立方「フヒート」ト爲ス蓋シ此ノ如ク餘積ヲ與ヘタルハ搭載貨物ノ大ニシテ輕

キ者ト小ニシテ重キ者トヲ平均シテ適宜ノ吃水量ヲ測リ且此噸數ニ隨ヒ税金ヲ課スルヲ以テ幾分ノ寬恕ヲ與フルニ外ナラス本案モ英國ノ測度法ニ依據シテ一噸ヲ百尺立方ト爲セリ斯ノ如ク其比例ヲ均ウセサレハ外國船舶ノ入港スルニ際シ噸稅ヲ課スルニ支障ス况ヤ某國ノ如キ若シ噸數ヲ詐ル有レハ其船舶ヲ沒收スル嚴法ヲ設クルヲ見ルヲヤ又日本形船ノ石數ハ從來其胴間ノ延長、横徑、深度ヲ乘シ升法六四五五三ヲ以テ之ヲ除シテ其石數ヲ定メ而シテ計内ノ二割ヲ減シテ積石ノ全量ト爲セリ今之ヲ本案ノ十立方尺ヲ一石ト爲スニ比スルニ其間大差ヲ生セサルノミナラス却テ本案ノ儲易キニ如カス以上ニ述ル所ハ即チ是レ本案ノ噸數石數ヲ規定セル原據ナリ

○二十四番 大鳥圭介

本案ノ事項ノ如キハ敢テ奉勅布告ノ法律ヲ以テ規定スルヲ要セス一ノ布達ヲ以テシテ足ル可シト信スレトモ畢竟其關係廣大ニシテ布告ヲ以テスルノ已ム可ラサル理由アリテ然ルナラン因テ之ヲ贊成ス然ルニ實際ノ事情ヲ審カニセサルヲ以テ今其疑點ヲ內閣委員ニ質問セン第八條ハ全船ノ噸數ノ計内ヨリ機關室ノ噸數ヲ除キ其他貨物ヲ搭載ス可キ場處ノミヲ測度スルコトヲ示ス者ナラン其第一項ノ外車汽船機關室ノ噸數ヲ除クハ全船ノ總噸數百分ノ三十七ト爲シ第二項ノ暗車汽船機關室ノ噸數ヲ除クハ全船ノ總噸數百分ノ三十二ト爲ス者ノ如シ然レハ則チ機關室ノ噸數ハ外車汽船ニシテ總噸數百分ノ二十ヨリ三十マテナレハ總噸數百分ノ三十七ヲ除キ暗車汽船ニシテ總噸數百分ノ十三ヨリ二十マテ

ナレハ總噸數百分ノ三十二ヲ除クナリ是レ必ス其理由ノ在ル有ル可ケレハ之ヲ説明センコトヲ請フ

○番二番塚原外 二十四番ニ答ヘン外車汽船ノ機關室ノ噸數ハ全船ノ總噸數百分ノ二十ヨリ三十マテナルニ百分ノ三十七ヲ除キ以テ其實際ヨリ過多ナル噸數ヲ除クハ是レ收稅ノ點ニ於テ其法ヲ寬ニシ大ニ便益ヲ與ヘントスルニ在ルナリ暗車汽船ノ機關室モ亦此理由ニ異ナル無シ

○二十四番大鳥圭介 番外ノ説明ヲ得テ疑團全ク氷解スルヲ得タリ夫レ此法案ノ如キ各外國共ニ夙ニ其設ケ有ル所ノ者ニシテ其關係廣ク外國ニ涉ルナリ故ニ本邦新タニ此法律ヲ制定スルニハ各外國ノ制度ト抵牾セサランコトヲ要ス蓋シ本案ハ英國ノ法律ニ依據セル者

ノ如シ是レ果シテ然ルヤ請フ之ヲ聞ン

○番二番塚原外 二十四番ノ云フ如ク本案ハ概テ英國ノ法律ニ依準シテ制定セシ者ナリ

○十四番田邊太一 本案ノ主旨タル頗ル明晰ナリ本官ハ其大體ヲ賛成ス朝來各官ノ質問セルヲ聞キ多少ノ疑點ハ概テ氷釋スルヲ得タルモ仍ホ一ノ質問ス可キ有リ即チ第一條ニ凡ソ船舶海軍艦船ヲ除クノ積量云云ト言ヒ海軍艦船ハ總テ此法律ノ範圍外ニ在ルカ如シ是レ別ニ測度方法ノ設ケ有ル乎

○番二番塚原外 本案ハ英國ノ商船條例ニ準倣セル者ニシテ第一條ニ掲クル如ク海軍艦船ハ全ク本案ノ管轄セサル所タリ元來軍艦ハ各國何處ノ港灣ニ到ルモ港稅ヲ徵スルコト無ク固ヨリ普通法ノ管轄

スル能ハサル者トス故ニ其測度方法ニ至テハ海軍省別ニ之ヲ定ムルナル可ク畢竟本案ハ專ラ商船ヲ測度スルニ在ルナリ

○二番渡邊 洪基 凡ソ噸量ノ用方ハ種種アリテ本案ノ主トスル所ハ英語

ノ「レヂストルトン子ーシ」即チ登簿噸數ナリ此事タル嘗テ英國ニ於テモ船舶ノ構造ニ關シ議論頗ル囂囂タリシモ今日ニ至リ漸ク一定セルカ如シ本案ハ英國ニ於テ既ニ論決セル法律ト同一ニシテ其之レニ依據セルハ甚タ其當ヲ得タル者トス復タ別ニ論辨ヲ要セス速ニ議決センコトヲ希望ス

○四十番三浦 安 本案ハ頗ル明瞭ニシテ本官別ニ異見アルコト無ク各

官モ同感ナラント信シ敢テ第二讀會ヲ連開センコトヲ建議ス

○議長 發議既ニ盡キタリト認ムルヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢ル然ル

ニ四十番ヨリ第二讀會ヲ連開スルヲ建議ス即チ之ヲ採用シ直チニ

第二讀會ヲ開カン

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

船舶積量測度規則別紙ノ通制定シ明治 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

行ス

右奉 勅旨布告候事

○十四番田邊 太一 本官ハ「船舶」ノ文字ヲ「商船」ト修正セント欲ス其理由

ハ第一條ニ船舶ト掲ケ故サラニ海軍艦船ヲ除クトノ脚註ヲ施シタルヲ觀レハ其船舶ニ限ルノ意思ハ自ラ明瞭ナリ然ラハ則チ宜ク確然商船ノ文字ニ改修スヘシ何ソ曖昧ナル船舶ノ文字ヲ用フルヲ要

セン且ツ軍艦ノ如キハ噸稅ヲ徵收セサルヲ以テ本案中ニ包含セサルハ知ル可キモ噸數ノ測度ハ或ハ造船若クハ船體測量ノ學問上ニ涉ル場合アリテ此點ヨリ之ヲ論スレハ軍艦ト商船トヲ別ツ無カル可シ本官ハ此事ニ關シ世人ノ疑議ヲ來ス無キヲ保スル能ハス且ヤ英國ノ法律モ既ニ「マーチャントシップ」即チ商船ノ文字ヲ用ヒタリ是レ以テ船舶ヲ商船ト修正スルニ若カサルヲ證ス可キナリ

○議長 番外ニ間フ測量船ハ軍艦ノ部類ニ屬シ本案ノ關スル所ニ非サル耶

○番外二番塚原周造 軍艦ニ非サル測量船及ヒ捕漁船ノ如キハ總テ本規則ノ範圍内ニ在リトス

○議長 十四番ノ修正說ハ賛成ナキヲ以テ消滅ス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン布告案ニ同意者ハ起立セヨ
起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官森山茂 朗讀

船舶積量測度規則

第一條 凡ソ船舶海軍艦船ヲ除クノ積量ハ此規則ニ依リ測度スル者トス

○議長 本案ニ同意者ハ起立セヨ

○議長 起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官森山茂 朗讀

第二條 船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位

トシ其尺度ハ分位ニ止ムヘシ

○議長 本案ニ同意者ハ起立セヨ

○議長 總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○議長 本案ハ別ニ異見ナカル可シト認ムルヲ以テ數條ヲ連帶シテ
議題ニ付スルノ可否ヲ議場ノ起立ニ問ハントス即チ連帶ヲ可トス
ル者ハ起立セヨ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ以下數條ヲ連帶シテ朗讀セシメン

書記官 森山 茂 朗讀

第三條 西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ日本形船ノ積

量ハ十立方尺ヲ以テ一石トス

第四條 西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量噸甲板ト

シ二層ノ者ハ其上層ヲ以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下

ヨリ第二層ニアル者ヲ以テ量噸甲板トス

○議長 本案ニ同意者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 朗讀

第五條 西洋形船ニシテ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ

噸數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トシ又

甲板三層以上ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ

噸數及ヒ最上甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

甲板ナキ者ハ舷端以下ノ噸數ヲ以テ該船ノ總噸數トシ又舷端以

上ニ船室アレハ其噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

○議長 本案ニ同意者ハ起立セヨ

○議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 朗讀

第六條 汽船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室及ヒ機關室ノ

噸數ヲ除キタル者トス

帆船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室ノ噸數ヲ除キタル者

トス

第七條 乗組人常用室トシテ除クヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ六ト

ス

○三十六番 細川潤 次郎 第六條ニ修正ヲ加ヘント欲ス其修正ハ本條ノ旨

趣ヲ一層明確ナラシムル爲メニ聊カ文字ヲ轉置スルニ在リテ是レ

大ニ體裁上ニ關係スル者タリ即チ第六條ヲ「總噸數ヨリ乗組人常用

室及ヒ機關室ノ噸數ヲ除キタル者ヲ汽船ノ登簿噸數トス」ト爲シ其

第二項モ亦同例ニ倣ヒ「總噸數ヨリ乗組人常用室ノ噸數ヲ除キタル

者ヲ帆船ノ登簿噸數トス」ト爲サントス抑モ本案ノ旨趣タル全ク噸

稅ヲ徵收スルニ存スト云フモ可ナル者ニシテ其眼目タル登簿噸數

トハ如何ナル者ヲ謂フカヲ明示スルニ在リ然ルニ原案ハ冒頭ヨリ

汽船ノ登簿噸數ハ云云ト掲出シ其眼目タル文字ノ勢力ヲシテ甚ダ

薄弱ナラシメ爲メニ或ハ本條ノ旨趣ヲ誤會セシムル有ルヲ免レス
故ニ若シ前陳ノ如ク修正セハ其登簿噸數ノ解釋ナルコトヲ明晰ナ
ラシムルヲ得ヘシ是レ然ク緊要ノ事項ニ非スト雖モ原案ノ旨趣ヲ
明確ナラシムルニハ已ム可ラサル者ト信シ試ミニ之ヲ提出ス

○九番神田孝平 三十六番ノ修正ノ如クセハ其登簿噸數ノ解釋ナルコト
ヲ明晰ナラシムルヲ得ヘキヲ以テ之ヲ賛成ス

○議長 三十六番ノ修正說ハ第六條ノ兩項ハ共ニ其文字ヲ轉換シ

「ハ」ノ一字ヲ「ヲ」ト改ムルニ止マル即チ賛成者アルヲ以テ問題ト爲
ス

○外三番黒田綱彦 本員ハ其職分トシテ原案ヲ維持ス可キハ當然ナレト
モ三十六番ノ修正說ハ頗ル妥當ニシテ敢テ異議ヲ容ル可キ無シ因

テハ仍ホ一層ヲ進メ第三條及ヒ第九條ノ行文ノ例ニ倣ヒ第一項ヲ
「汽船」ハ其總噸數ヨリ乗組人常用室及ヒ機關室ノ噸數ヲ除キタル者
ヲ登簿噸數トスト爲シ第二項モ亦之ニ倣ハハ頗ル完全ナルカ如シ
聊カ愚見ヲ陳シテ各位ノ參考ニ供ス

○三十六番細川潤次郎 番外三番ノ意見ハ本官ノ修正ニ比スルニ尙ホ一

層ノ明晰ヲ加フルカ如シ本官初メ文字上ニ於テ少シク修改セント
欲セシモ此無疵ノ法案ニ對シ數多ノ文字ヲ刪添スルハ頗ル好マサ
ル所ナルヲ以テ唯其字句ヲ轉換スルニ止メタリ且ヤ本案ノ如キハ
獨リ内國ノミナラス廣ク外國ニ關涉スル法律ナレハ宜ク其文法ヲ

○正クシ歐文ニ翻譯スルニ易カラシムヘシ是レ本條ノ主格ハ登簿噸
數ノ文字ニ在ルコトヲ明サント要スル所以ナリ故ニ本官ハ番外三

番ノ意見ニ感服ス

○二番 渡邊 洪基

三十六番ノ修正ハ本官之ニ同意スル能ハス抑モ本案ノ旨趣タル登簿噸數ヲ示スニ存シ殆ント登簿噸數ヲ規定スル爲メニ制定セル者ト謂フモ可ナリ第一條乃至第五條ハ多クハ船舶ノ總噸數ニ係リ第六條以下ハ登簿噸數ニ關ス殊ニ此第六條ハ登簿噸數ノ釋義ヲ明示スル者ナレハ「登簿噸數ハ云云」ト爲シ其主格ヲ明晰ナラシムルヲ要スルモ行文上汽船若クハ帆船ノ文字ヲ冒シ以テ其區別ヲ爲ササル可ラス故ニ原案ノ如クセシナラン然ルヲ倘シ三十六番ノ原説及ヒ番外三番ノ注意ノ如クセハ其主格ノ明晰ヲ求メントシテ却テ曖昧ヲ致スヲ免レス畢竟強テ修正ヲ加フルノ要用ヲ見サルノミナラス却テ原案ニ如カサルヲ覺ユルナリ

○三十番 柴原 和

本官ハ二番ト感想ヲ同ウス本案ノ實際ノ如何ハ素ヨリ之ヲ知ラサレトモ法文上ニ於テハ各位ノ質問ニ因テ已ニ一モ意義ノ明晰ヲ缺ケル無キヲ信ス故ニ全ク本案ヲ賛成ス然ルニ文章ノ點ヨリシテ三十六番ノ修正説ヲ提出セル有ルモ亦是レ原案ヲ以テ可ナリトス因テ議長ニ問フ番外三番ノ「汽船云云」ノ意見ハ三十六番ノ嘆稱スル所ト爲リタルモ是レ一場ノ談話ニ過キスト認ム然ルモ或ハ既ニ問題ト爲レルヤ否ヤニ疑ヒ有リ幸ニ説示ヲ乞フ

○議長 三十六番ハ番外三番ノ意見ヲ是認セルモ其修正説ヲ收消セサルヲ以テ依然議場ノ問題タルナリ

○三十番 柴原 和

領解ス然ラハ本官ハ修正説ニ左袒スル能ハス番外三番ハ三十六番ノ修正説ヲシテ一層ニ完全ナラシムト陳述セシモ到

底原案ノ明瞭ナルニ及カス

○九番神田孝平 本官ハ三十六番ノ賛成者タリ然ルニ若シ三十六番ノ前

説ヲ改メテ再ヒ提出スル有ラハ又隨テ之ヲ賛成セントス

○議長 三十六番ニ間フ前説ヲ改メテ再ヒ提出スルヤ否ヤ

○三十六番細川潤次郎 向キニ番外三番ノ意見ニ感服スト述シハ只是レ

一場ノ談話タルニ過キス本官ハ現問題説ヲ執テ敢テ動カス何トナ

レハ假令些少ノ修正説ナリトスルモ既ニ已ニ議場ノ公共物タルヲ

以テナリマ三十六番ハ對面ニ出シテ其ノ意ヲ示シテ其ノ意ヲ以テ

○議長 發議已ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン三十六番ノ動議ニ同意

者ハ起立セヨ

○三十一起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ三十六番ノ修正説ハ消滅ス

○三十六番細川潤次郎 本官ノ修正説タル苟モ一タヒ之ヲ提出セハ必ス

忽チ滿場ノ賛成ヲ博取ス可シト豫期セシニ豈ニ圖ラン賛成少數ナ

ルヲ以テ消滅セントハ是レ蓋シ議場ノ氣勢ノ然ラシムル所ニシテ

○固ヨリ已ムヲ得サルノミ今ヤ假令番外三番ノ意見ヲ採取シテ再ヒ

之ヲ提出スルモ到底成立ス可ラサルヲ信スレハ本官復タ敢テ提出

セサル可シ

○三番東久世通禮 本官試ミニ三十六番ニ代リ番外三番ノ意見ヲ採取シ

テ修正説ヲ提出セン實ニ本條ハ登簿噸數ノコトヲ主格ト爲セルカ

○故ニ必ス之ヲ明瞭ナラシメサルヲ得ス因テ汽船ハ總噸數ヨリ乗組

人常用室及七機關室ノ噸數ヲ除キタルモノヲ登簿噸數トス」トシ第

二項モ之ニ倣フノ修正ヲ加ヘン

○九番神田孝平三番ヲ賛成ス實ニ登簿噸數ナル文字ハ行文ノ末尾ニ置

クヲ得タリトス

○三十五番鍋島直彬番外三番ノ意見ハ「汽船ハ其總噸數云云」トスルニ

在リ然ルニ只今三番ノ之ヲ採取シテ修正文ヲ提出セルモ其文中ニ

「其」ノ字ナキカ如シ是レ之ヲ要セストスルニ在ル歟

○三番東久世通禧三十五番ニ答フ本官ノ「其」ノ字ヲ省キシハ其要用ナ

シト認ムレハナリ

○議長三番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○二十四番大島圭介三番ノ修正說ハ本官尤モ同意ヲ表スルヲ得ス向ニ

消滅セシ三十六番ノ修正說ハ現問題ニ比スレハ稍ヤ備ハリシモ尙

○ホ原案ニ及ハサル萬萬ナリ然ルヲ若シ現問題ノ如ク「汽船ハ云云」

ト修正セハ爲メニ登簿噸數ノ本條ノ主格タル所以ヲ失ヒ却テ汽船

ノ解釋タルヤノ疑議ヲ來スヲ免レス其本案ノ旨趣ヲ害スル少小ナ

○ラス本官ハ既ニ三十六番ノ修正說ニ同意セス況ヤ現問題ヲヤ

○二十八番箕作麟祥本官ハ二十四番ト同感ナリ現問題ハ三十六番ノ修

正說ト共ニ當ヲ得サル者トス本官前陳セシ如ク本案ハ廣ク外國ニ

關涉スルヲ以テ其文法ノ如キ最モ正確ニシテ容易ニ洋文ニ直譯ス

ルヲ得セシメサル可ラス原案第六條ハ其文法頗ル平易ニシテ之ヲ

洋文ニ譯スル甚タ容易ナルカ如シ然ラハ則チ強テ之ヲ修改シ以テ

其文法ヲ變スルヲ須ヒス況ンヤ原案ノ主意ハ其行文上ニ明白ナル

ヲヤ

○外三番 黒田 綱彦 本員嚮ニ三十六番ノ修正説ニ對シテ意見ヲ吐露シ若

シ汽船ハ其總噸數云云ト爲サハ一層ニ明確ヲ加ヘント陳述セシ

ニ三十六番ノ修正説ハ消滅シ而シテ三番ハ本員ノ意見ヲ採取シ修

正説ト爲シテ提出セルモ其修正文ハ本員ノ陳述セシ所ト少シク異

ニシテ「ハ」ノ下ニ「其」ノ一字ヲ除去シタリ畢竟本員ノ陳述セシハ只

是レ三十六番ノ注意ヲ促セルニ過キスシテ敢テ其説ノ原案ニ優レ

リト云ヒシニ非ス本員ハ職分トシテ原案ヲ保持スルノ外ナキナリ

○三十番 柴原 和 番外三番ノ只今ノ陳述ヲ聞クニ全ク前者ノ陳述ト異

ナリ何ソ其レ變轉スルノ速カナルヤ實ニ番外三番ハ原案ヲ保持ス

ルニ巧ミナル者ト謂フ可シ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン三番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ消滅ス本案第六條第七條ニ同意者ハ起立セ

ヨ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 茂 朗讀

第八條 機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ左ノ如シ

○ 外車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテハ

總噸數ノ百分ノ三十七

暗車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ十三ヨリ二十マテハ

總噸數ノ百分ノ三十二

機關室ノ廣狹ニ依リ前項ノ割合ニ適セサル者ハ該室ノ噸數ニ外車漚船ナレハ其二分ノ一ヲ加ヘ暗車漚船ナレハ其四分ノ三ヲ加ヘタル者トス

○議長 本案ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第九條 日本形回漕船ハ船梁上下船艙ノ石數ヲ以テ該船ノ積石ト

シ又其構造回漕船ニ異ナル者ハ舷端以下ノ石數ヲ以テ該船ノ積

石トス

第十條 船舶ノ噸數及ヒ積石測度ノ方法ハ布達ヲ以テ之ヲ定ムヘ

シ

○議長 第九條第十條本案ニ同意者ハ起立セヨ

總員起立十五人

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

○二番 渡邊 洪基 本案ハ別ニ異議ナキカ如キヲ以テ第三讀會ヲ連開セン

○コトヲ建議ス

○三十七番 津田 眞道 本案ハ既ニ當局者ノ充分ニ調査シタル者ニシテ復

タ餘蘊ナキニ似タリ故ニ第二讀會ニモ第六條ノ字句ニ關シ文章ニ

熟達セル一二議官ノ修正說ノ出タルモ皆少數ニシテ消滅セリ是ニ

繇テ之ヲ觀レハ本案ハ到底實地ヲ知ラサル者ノ喙ヲ容ル可キニ非

ス本官ハ本案ヲ信スル猶ホ病時ニ國手ヲ信スルカコトシ因テ第三

讀會ヲ連開シ議案ノ朗讀ヲ省カンコトヲ望ム

○議長 第二讀會ハ既ニ經了セリ只今二番ノ第三讀會ヲ連開スル建議アリ因テ採用ス可キヤ否ヤヲ起立ニ問フ即チ建議ニ同意者ハ起

立セヨ

○三十起立者二十三人

○議長 多數ナルヲ以テ建議ニ決シ直チニ第三讀會ヲ開ク議案ノ朗

讀ヲ省キ布告案以下全文ヲ以テ議題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本案ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ第三讀會ヲ經了ス例ニ遵ヒ上奏

セン散會セヨ

午前第十一時十分閉場

元老院會議筆記 明治十七年三月六日

○第四百三十三號議案 民事訴訟用 檢視會
印紙規則

議長 東久世
通禧

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 七番 | 宮本 小一 |
| 八番 | 井田 讓 |
| 九番 | 神田 孝平 |
| 十二番 | 榎村 正直 |
| 十三番 | 大久保一翁 |
| 十四番 | 田邊 太一 |
| 十七番 | 福原 實 |

- | | |
|------|-------|
| 十九番 | 河田 景與 |
| 二十番 | 林 友幸 |
| 二十三番 | 橋口 兼三 |
| 二十四番 | 大鳥 圭介 |
| 二十五番 | 西村 貞陽 |
| 二十八番 | 箕作 麟祥 |
| 三十一番 | 上杉 茂憲 |
| 三十二番 | 鷲尾 隆聚 |
| 三十五番 | 鍋島 直彬 |
| 三十七番 | 津田 真道 |
| 三十九番 | 伊集院兼寛 |

- | | |
|------|-------|
| 四十番 | 三浦 安 |
| 四十一番 | 西 周 |
| 四十二番 | 長岡 護美 |
| 四十五番 | 神山 郡廉 |

午前第十時二十五分開場

○議長 第四百三十三號議案ノ檢視會ヲ開ク朗讀ハ通牒文ト布告文トニ止メン而シテ右檢視ヲ經過セハ更ニ第四百三十四號議案ノ第三讀會ヲ開ク可シ

書記官 森山 朗讀

客月三十一日議定上奏相成候民事訴訟用印紙規則制定ノ儀更ニ修正ヲ加ヘ別冊ノ通便宜布告ノ後其院檢視ニ被付候事

明治十七年二月二十三日

太政大臣三條實美

元老院議長佐野常民殿

第五號

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス

但明治八年^{十二月}第二百九拾六號布告訴訟用罫紙規則ハ右施行ノ日

ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

明治十七年二月廿三日

太政大臣三條實美

司法卿山田顯義

左案ハ議場ニ於テ朗讀セサリシモ閱覽ニ便スル爲メニ此ニ附載ス

民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ區別ニ隨ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用ス可シ

金額 五圓マテ

貳拾錢

同 拾圓マテ

三拾錢

同 貳拾圓マテ

六拾錢

同 五拾圓マテ

壹圓五拾錢

同 七拾五圓マテ

貳圓貳拾錢

同 百圓マテ

三圓

同 貳百五拾圓マテ

六圓五拾錢

同 五百圓マテ

拾圓

同 七百五拾圓マテ

拾三圓

同 千圓マテ

拾五圓

同 貳千五百圓マテ

貳拾圓

同 五千圓マテ

貳拾五圓

同 五千圓以上ハ千圓マテ毎ニ貳圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第三條 人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用

ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ

但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戸長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁

判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコトアル可シ

第四條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

答辯書證據物寫辯駁書辯論書上申書陳述書等

證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延期ヲ請求スル願書

第五條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償ス可キモノトス

第九條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○四十番^{三浦安} 本案ハ向ニ修正ヲ加ヘ議定上奏セシニ内閣更ニ修正シテ布告後檢視ニ付セラレタル者ナリ元來訴狀ニ貼用スル印紙ノ價額ハ敢テ其多少ヲ問ハサレトモ第七條ニ於ケル勸解ニ用フル書

類ニ貼用セシムルハ甚タ不可ナリ蓋シ勸解ハ訴訟ニ非サレハナリ
且本案ノ事タル新設ニシテ獨逸ニ祖述セシ者ナリト聞ケトモ第七
條ノ如キハ獨逸國ニ於テモ之レ無キ所タリ縷縷ノ陳述ハ日前既ニ
之ヲ竭セシヲ以テ更ニ喋辨セサレトモ本官ハ決シテ本案ヲ明備ナ
ル法律ト承認スルコト能ハス

○議長 本案ヲ明備ナリト思考スル各位ハ起立セヨ
起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ハ異議ナク檢視ヲ經過シタルノ旨ヲ具
シテ上奏セン

右訖テ第四百三十四號議案ノ第三讀會ヲ開ク

元老院會議筆記 明治十七年三月五日

禁傍聽

○第四百三十四號議案 質屋取締條例ノ儀 第一及第二讀會

議長 佐野常民

出席議員

- 三番 東久世通禧
- 五番 津田 出
- 七番 官本 小一
- 九番 神田 孝平
- 十三番 大久保一翁
- 十四番 田邊 太一
- 十七番 福原 實

十九番 河田 景與

二十番 林 友幸

二十四番 大鳥 圭介

二十五番 西村 貞陽

二十八番 箕作 麟祥

三十一番 上杉 茂憲

三十五番 鍋島 直彬

三十七番 津田 眞道

三十九番 伊集院兼寛

四十番 三浦 安

四十一番 西 周

四十二番 長岡 護美

内閣委員番外一番 参事院議官 水本 成美

同 番外二番 参事院議官補 黒田 綱彦

午前第十時十分開場

○議長 第四百三十四號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

質屋取締條例別紙ノ通制定シ來ル 年 月 日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ捺印ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物貸金質主及質入受戻ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但證人ヲ要スルトキハ質主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癲者及雇人雇主ノ家ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其實入シ得

ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サル、コトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ

所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品、代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 警察官ニ於テ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及簿冊ノ検査ヲ爲

シ其質物ヲ差押ヘ又ハ所轄警察署ニ於テ検査ノ爲メ簿冊ヲ差出サシムルコトアルトキハ何時タリトモ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責

ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府ヲ除ク縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○番二番黒田綱彦 本案制定ノ主旨ヲ陳述スルニ先タチ第三條中ノ誤刷ヲ訂正ス即チ質物貸金質主及質入受戻ハ一名詞毎ニ讀點ヲ施ス者ト認ム可シ

○番一水本成美 例ニ遵ヒ本案制定ノ理由ヲ畧陳セン抑モ本案ノ主旨ハ各位モ一讀シテ之ヲ知悉セン即チ客年第五十號ヲ以テ古物商取締條例ヲ布告セシ以來ハ容易ニ贓物ヲ運轉スル能ハサルニ至レリ古物商既ニ然リ贓物ノ寄藏典賣ニ關聯セル質屋ヲ措テ問ハサルハ甲ニ嚴ニ乙ニ寬ナル誹議ヲ免レス要スルニ不正品ノ集聚スル所ハ質屋モ亦其一ニ居ルヲ以テ苟モ質屋取締條例ヲ制定セサレハ縱令嚴密ナル古物商取締條例ノ存スルモ賊徒ハ古物商ニ行カスシテ質屋ニ行キ其贓物ヲ典賣シ復タ些ノ苦慮ヲ要セスシテ巨利ヲ攫取ス

ルヲ得ン是レ本案ノ制定ヲ今日ノ急務ト爲ス所以ナリ且夫レ本案ハ徳川政府ノ八品商取締觸書及ビ各藩ノ享保寛政年間以後之ニ關スル文獻ノ徵ス可キ者ヲ取捨シ以テ今日ニ適合スル如クニ制定シタルナリ更ニ其要旨ヲ摘述センニ古來質屋ハ各種ノ嚴密ナル規則慣例ヲ遵守シ勘合ニ便スル臺帳ヲ具ヘ久ク淪ラサル組合ヲ設ケ百般ノ順序粗ホ整頓セルヲ以テ贓物ヲ官司ニ密告スル者亦多カリシ試ニ近年東京府下ニ於テ質屋ノ密告ヲ爲シタル者ヲ算スルニ二十四年ニ九人十五年ニ四十二人十六年ノ一月ヨリ九月マテニ十九人トス密告者此ノ如ク其レ多キモ故犯者ノ發覺セシハ十四年乃至十六年ノ間ニ於テ唯十五年ニ一人ノミ但シ質屋ニ不正者ノ少キハ畢竟慣習ニ於ル提轄方法ノ其宜キヲ得タルニ由ル故ニ本案ノ主義モ質

十
屋ヲ古物商ニ比スレハ之カ罰則ヲ緩和シ即チ罰金ノ如キモ最上限
ヲ二百圓ニ止メ而シテ施体ノ刑ヲ用ヒス亦特別取締ノ方法ヲ設ケ
ス是レ本案ノ古物商取締條例ニ比較シテ大ニ注意セシ所ナリ本年
一月二十五日警視廳甲第七號ヲ以テ今般甲第六號布告ヲ以テ八品
商取締規則廢止候處質屋營業者ノ儀ハ從前之規則ヲ遵守シ警察署
一管内限リ組合ヲ設ケ其組合中ヨリ正副取締ヲ置キ諸事取締ヲナ
スヘシト布達セシモ蓋シ古物商取締條例ハ既ニ制定頒布シタレト
モ質屋ノ提轄方法ハ之ヲ爲ス如何トノ議難ヲ防クニ在リ故ニ本案
ハ必ス速ニ議決上奏センコトヲ望ム若シ夫レ逐條ニ關スル質疑ハ
番外二番モ答辨ヲ爲ス可キナリ

出席

八番

井田

讓

○番外二番 黒田 綱彦

本案制定ノ理由ハ既ニ番外一番ノ之ヲ説明シタルヲ
以テ更ニ本員ノ喋辨ヲ待タサレトモ此條例ハ自ラ古物商取締條例
ト權衡ヲ保持スル者ナルカ故ニ或ハ彼ニ有ル條項ニシテ本案ニ之
レ無ク或ハ本案ニ有ル條項ニシテ彼ニ無ク且其文章モ隨テ少異同
無キニ非サルヲ以テ各位ノ或ハ疑惑ヲ生センコトヲ恐ル請フ聊カ
其然ル所以ヲ言ハン抑モ第三條ニ言ヘル證人ハ第四條第五條ニ言
ヘル證人ヲ指ス既ニ第四條第五條ニ示セル證人ヲ指スナレハ之ヲ
前條ニ掲ルハ頗ル不倫ナルニ似タレトモ第二條ニ質物臺帳ノコト
ヲ示シ而シテ第三條ハ此臺帳ヲ承タル者ナルカ故ニ已ムヲ得ス第
三條ニ證人ノ文字ヲ掲タリ又第六條ノ寄藏ノ字面ハ即チ預リ物ノ
義ニシテ質物モ猶ホ是レ預リ物タレハ特ニ寄藏ノ字面ヲ要セスト

難スル有ル可キモ凡ソ質物ハ金ヲ借ル爲メニ質屋ニ預ケタル抵當物ナリ寄藏トハ單ニ金ヲ借ル爲メノミニ限ラス甲乙ノ契約ニ由テ物品ヲ預ケ若クハ之ヲ預リタル者ヲ云フ故ニ質屋ニハ不正ナル人物少シト云フモ今日ハ叨ニ法網ヲ脱スル弊風ヲ成セル時ナレハ若シ寄藏ノ字面ヲ存セサルトキハ其寄藏シタル物品ノ發覺スルコト有ルモ本人ハ恬然トシテ云ハンは是レ寄藏即チ預リ物ナリ彼レ此物品ヲ抵當ト爲シ以テ金ヲ借ル可シト乞ヒシモ吾未タ之ヲ貸サスト官司ニ申告セハ現ニ其實情ヲ知悉スルモ之ヲ處分スルニ由ナキナリ要スルニ質ト寄藏トハ其區別ヲ爲スノ甚タ難キヲ以テ特ニ之ヲ明掲スルヲ要用ト爲ス第十三條ハ古物商取締條例第十三條ト其文章ヲ異ニシ其精神ヲ同ウセリ是レ古物商取締條例ハ其文章ヲ分テ

二段ト爲スカ故ニ彼ノ如クナルモ此ハ全條一段ヲ以テ貫ケルカ爲メナリ事稍本案ノ外ニ涉レトモ亦自ラ本案ニ牽連スルヲ以テ更ニ一言セン古物商取締條例第二十一條ニ贓物ニ係ル者ハ警察署之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スルコトヲ言ヒ而シテ本案ニ之ヲ要セサルハ彼ハ公商ナルヲ以テ然ルモ質屋ニ來ル質主ハ皆是レ其公商タルヤ如何ヲ問フニ非サルヲ以テ刑法附則ノ爲メニ束縛セラレサルナリ

○三十一番^{上杉茂憲} 番外一番ノ大體ノ説明ト番外二番ノ逐條ノ説明トヲ聞クヲ得タリ實ニ番外一番モ言ヘル如ク古物商取締條例ヲ布告シタル以上ハ必ス本案ノ設ケ無キ能ハス而シテ本案ト古物商取締條例トハ亦自ラ寛猛ノ差別ヲ存セサル能ハス本官ハ反覆熟考スル

ニ本案ノ寛ナルヲ喜ヒ大ニ之ヲ賛成ス願クハ速ニ議定上奏センコトヲ本官ハ些モ本案ニ對シ異見ヲ有セサルナリ

○四十番 三浦安 本案ノ要旨ハ内閣委員ノ辨説ニ因テ分明ナリ本官喜テ之ヲ賛成シ亦質問ヲ要セス故ニ直チニ第二讀會ヲ開キ第三讀會ノミヲ後日ニ延ヘンコトヲ建議ス

○三番 東久世通禧 本案ノ要旨ハ内閣委員ノ辨説ニ因テ分明ナレトモ是レ自ラ古物商取締條例ト牽連スル者ナレハ只今別ニ修正ノ意見ヲ蓄フルニハ非サレトモ三名ノ全部付託調査委員ヲ置キ其報告ヲ待テ而ル後ニ第二讀會ヲ開カハ却テ議決ニ便ナラン殊ニ下付議案モ其數甚タ多キヲ以テ此ノ如ク建議ス願クハ本官ノ建議ノ議場ニ容レラレンコトヲ

○議長 大體ニ關スル發議及ヒ質問ヲ爲ス無キヲ以テ此ニ第一讀會ヲ畢ル乃チ三番ノ建議ノ決ヲ取ラン古物商取締條例ニ關係ヲ有スル本案ナルヲ以テ三名ノ付託調査委員ヲ置ントスル建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ三番ノ建議ハ消滅ス即チ四十番ノ直チニ第二讀會ヲ開ク可シトスル建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ四十番ノ建議ニ決シ乃チ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

布告案

質屋取締條例別紙ノ通制定シ來ル 年 月 日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

○二十八番案作 麟祥 古物商取締條例ニハ「別冊ノ通」ト言ヘルヲ以テ本

案モ彼ニ倣ヒ亦「紙」ヲ冊ニ修正セン

○二十四番大鳥 圭介 賛成ス獨リ古物商取締條例ノミナラス他ノ法律モ

皆然ルナリ

○議長 二十六番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲シ直チニ決ヲ

取ラン之ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ二十六番ノ修正説ニ決ス

書記官森山 茂 朗讀

質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官森山 茂 朗讀

○第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ

受クヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官森山茂 朗讀

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質主及質入、受戻ノ

年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但證人ヲ要スルトキ

ハ質主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシ

○二十四番大鳥圭介 本條ニ言ヘル質主トハ恐クハ質入主ノ謂ナラン地

租法ノ議案ニハ質入主ト質取主トヲ駢掲セリ知ラス質主トハ他ノ

法律ニ其用例アル熟字ナリヤ亦其果シテ質入主ナル更ニ疑ヲ容レ

サル熟字ナルヤ

○番二番黒田綱彦 從來地所家屋等ノ質入書入等ニ關スル法律ニハ質取

主質入主ト駢掲セシモ普通ノ質屋ニ對シテハ今日以前未タ以テ一

定ノ法律ヲ布タルコト無キカ爲メニ隨テ其文例ノ存スル無シ封建

時代ニハ各藩其名目ヲ異ニセシモ各地概テ質主ト稱スルヲ慣習ト

爲シ大政維新以後モ亦多ク此慣習ニ仍リシヲ以テ本案モ亦質主ト

掲タリ其適例ノ如キハ只今之ヲ舉示スル能ハス

○三十七番津田眞道 八品商取締規則ニハ質入主ト明掲セリ此ノ如クニ

シテ始メテ質取主ニ非サルコトヲ明ニスルヲ得ヘシ若シ單ニ質主

ト言フトキハ其果シテ質入主タルト質取主タルトヲ判ツ能ハス内

閣委員ハ八品商取締規則ニ質主ト言ヘルヲ以テ本案モ亦之ニ倣フ

ト云ヘリ然ルニ本官ノ此席ニ携帶セル八品商取締規則書ニハ質入

主ト掲ケリ知ラス熟レカ正確ナリヤ

○番二番黒田綱彦 本官ハ敢テ八品商取締規則ニ質主ト言ヘルヲ以テ之

ニ倣フト云フニ非ス全國ヲ通シテ慣用スル稱呼ニ從ヒシノミ且單

ニ質主ト言フモ猶ホ典主典舖ヲ區別シ得ルコトク明白ニ區別シ得ルナリ八品商取締條例ニハ質ニ質入主ト言ヘルハ質問者ノ云ヘル如シ

- 二十四番 大鳥圭介 質主ノ質入主タルコトハ熟考セハ悟了ス可キモ他ノ法律ニモ質入主ナル例文アルノミナラス三十七番スラ疑惑ヲ起ス如キ字面ナレハ其他ハ推ス可キナリ故ニ強テ修正セント欲スルニ非ス亦東京府下ノ方言ヲ用ヒント欲スルニ非サレトモ其字面能ク明白ナレハ全國ニ通シテ明白ナラシムルヲ得可シ故ニ本條中兩所ノ質主ノ文字ハ共ニ質入主ト修正セシ
- 三十一番 上杉茂憲 本官ハ第一讀會ニ當リ本案ハ一點ノ修正ス可キ者ナシト明言セシモ二十四番ノ說ニ由テ之ヲ考フレハ質入主ナルヤ

質取主ナルヤヲ明白ニ區別スルヲ最モ妙ナリトス故ニ之ヲ賛成ス

○議長 二十四番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 二十四番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十人

○議長 半數ナルヲ以テ職權ニ據リ之ヲ決セン即チ八品商取締規則ニ質入主ト言ヘルハ二十四番ノ說ノ如クナルカ故ニ其修正說ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

○八番 井田讓 「身元詳ナラサル者」トハ古物商條例其他ノ法律ニモ掲

○記セル文辭ナレトモ本案ハ住處番地ノ詳ナラサル者ヲ謂フ乎將タ其人若シ寄留者ナラハ本貫族籍番地及ヒ其素行ヲモ詳悉シ而ル後ニ始メテ質物ヲ取ルヲ謂フ乎

○外番二番黒田綱彦 本案ハ恰モ古物商取締條例ノ意義ニ差フコト無シ唯

其住處番地ヲ告ルモ未タ以テ身元詳ナリト云フヲ得ス其告ル所ノ住處番地ノ實ニ差ハサルヲ知テ始メテ詳悉スト云フヲ得ルノミ若シ夫レ寄留者ノ本貫國地及ヒ其素行等ハ初ヨリ之ヲ問フニ意ナキナリ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癲者及雇人雇主ノ家ヨリ質物ヲ取

ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキ

○ハ此限ニアラス

官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得

○ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取

ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無

ク質物ヲ取戻サル、コトアルヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ

處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキハ直

ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來

ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告ス

ヘシ

○十四番 田邊太一 贓物タルニ疑ヒ有ル物品ヲ齎シ來ルトキハ質屋ハ如

何ニ處分ス可キヤ

○番 水本成美 外 十四番ノ質問ハ齎シ來ル物品ヲ如何ニ處分ス可キヤ

ト云フニ似タリ是レ質屋ニ留置シテ警察署若クハ査官等ニ密告ス

ルナリ

○二十八番 箕作麟祥 内閣委員ニ質問ス番外一番ハ質屋ノ贓物タルニ疑

ヒ有ル物品ヲ密告スル爲メニ罪人ヲ捕縛スル多シト云フモ從來ハ

密告シタル爲メニ之ニ褒賞ヲ與フルコト有リ今ヤ本案ハ密告セサ

レハ第十四條ノ罰金ニ處セラレ而シテ褒賞ヲ與フルコト無ク恰モ

密告スルハ當然ノ義務タルカ如シ知ラス從來ハ密告セサレハ科罰

シタルヤ

○番二番 黒田 網彦

是レ舊慣ニ沿遵シタルナリ寶永三年十月ノ江戸町觸
ニモ此事ヲ載セ其他諸藩ニモ亦多ク此類例ヲ見ル此觸書ニ背キテ
密告セサレハ質屋ハ手錠ノ罰ニ處セラレ密告シテ其物品ノ果シテ
不正品ニ係レハ褒賞ハ與ヘサレトモ被害者其價ヲ償フニ非サレハ
物品ヲ還取スルコト能ハス故ニ舊幕府ノ時代ニハ先ツ申告ヲ爲セ
ハ元金ヲ損失セサルヲ以テ不正品ノ現出スル甚タ多カリシ大政維
新以來密告スルモ果シテ不正品ナレハ質屋ノ損失ニ歸セシムル例
制タルヲ以テ密告ノ數ハ頓ニ減セリ是レ密告スルモ其物品ハ本主
ニ還與シ貸金ハ損失ニ歸スルヲ以テナリ故ニ警視廳ニ於テ贓品ニ
係レハ價直ヲ給セスシテ之ヲ徵取シ而シテ別ニ一二圓金ノ褒賞ヲ

與フル規則ヲ布キシモ典質ヲ業トスル如キ巨商ナレハ一二圓金ノ
褒賞ヲ得ルヲ喜ハス唯其拜受ノ爲メニ時間ヲ徒費スルヲ苦メリ然
ルカ故ニ本案ヲ制スルニモ密告スル者ハ其貸金ヲ還付スト掲クル
能ハサルヲ以テ密告セヨ密告セサレハ二百圓以下ノ罰金ニ處スト
爲セリ舊幕府ノ法制ハ善良ナレトモ今日ニ於ル立法ノ原則ニ反ス
ルヲ以テ已ムヲ得ス此ニ出テタルナリ

○二十八番 箕作 麟祥

分明ニ領會セリ然レハ舊幕府ノ法制ハ密告セサル
罰ハ手錠ヲ加フルニ在テ密告スル利ハ褒賞ヨリ勝ル有リシモ警視
廳ハ刑法治罪法ノ原則ニ從ヒ舊幕府ノ法制ニ據ル能ハス而シテ褒
賞ノコトハ彼レ却テ時間ヲ徒費スルヲ苦ムヲ以テ本案ハ此餌ヲ止
メ重大ノ罰金ヲ課シ以テ必ス密告セシムル方法ヲ取レルナリ實ニ

罰金ノ重大ナル爲メニ密告スルヤヲ知ラサレトモ本官ハ此點ニ關シ第三讀會ニ至テ或ハ修正ヲ提出スル有ルヲ知ラス蓋シ一圓金タルモ褒賞ヲ與フルヲ可ナラント信スレハナリ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品、代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書

ニ附記スヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 朗讀

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏

シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見

シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 朗讀

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ

若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 朗讀

第十三條 警察官ニ於テ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及簿冊ノ検査ヲ爲

シ其質物ヲ差押ヘ又ハ所轄警察署ニ於テ検査ノ爲メ簿冊ヲ差出

サシムルコトアルトキハ何時タリトモ之ヲ拒ムコトヲ得ス

○二十八番 箕作 麟祥 本條ヲ修正セン内閣委員ハ本條ハ古物商取締條例

第十三條ト其文章ヲ異ニシテ其精神ヲ同ウシ即チ彼ハ文章ヲ分段

シ此ハ之ヲ一貫セリト辨スレトモ本案ノ各條ハ素ヨリ彼ト同クシ

テ其文章ノ異ナル有リ而シテ各位ノ之ヲ論セサルハ已ムヲ得サル
 カ爲メノミ然ルニ此第十三條ハ彼第十三條ト精神ヲ同ウスト云フ
 モ是レ自カラ異ナルヲ見ル即チ彼ハ冒頭ニ「警察官ハ何時タリト
 モ」ト言ヘルヲ以テ治罪法ノ原則ニ拘ラス日出前日没後ト雖モ警察
 官ノ其店舗ニ臨ムノ意味ヲ爲セトモ本案ハ「何時タリトモ」ノ字句ヲ
 末段ニ置クカ故ニ警察官ノ其店舗ニ臨ムトキハ之ヲ拒ムコトヲ得
 サルハ何時ヲ論セサルノ意味ヲ爲シ即チ之ヲ拒ムコトヲ得サルノ
 字句ニ對スル者ト爲リ迂廻シテ之ヲ解スルニ非サレハ則チ警察官
 ハ何時タリトモト解スルヲ得サルナリ又古物商取締條例ニハ所轄
 ノ二字ヲ下サス然ルモ是レ強テ論スルヲ要セス唯何時タリトモ警
 察官ハ臨檢シ及ヒ其他ノ事項ヲ命令スルヲ得而シテ質屋ハ之ヲ拒

ムヲ得サルコトヲ明カニセハ足ル可シ且古物商取締條例ニ依遵ス
 ルヲ得タリトス故ニ警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舗ニ臨ミ質物
 及ヒ簿冊ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ
 差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
 ト修正セントス

○四十番^{三補} 賛成ス蓋シ古物商取締條例ト本案トハ自カラ其事實
 ヲ同クスル者ナレハ特ニ文章ヲ變シ以テ人ヲシテ疑惑セシムルヲ
 要セサレハナリ

○三十一番^{上杉茂憲} 本官モ修正ヲ加ヘント欲セシニ番外二番ハ意味同
 一ナリト説明シタルモ二十八番ノ説ノ出タル以上ハ之ヲ賛成セサ
 ルヲ得ス「何時タリトモ」ノ一句ヲ末段ニ置クハ其位置轉倒ス故ニ

之ヲ首段ニ移スヲ順序ヲ得タリトス又其時宜ニ依リノ一句ヲ添ヘタルハ最モ妙ナリ

○二十四番 大鳥圭介 賛成ス實ニ「何時タリトモ」ノ一句ハ本條ノ眼目タリ質屋ニシテ不正ナル徒ハ此一句ノ爲メニ常ニ戒心ヲ存シ以テ不正ヲ爲サ、ル可ク而シテ之ヲ前斷ニ移スヲ明白ナリトス

○議長 二十八番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○一番 水本成美 事宜ニ依リノ一句ヲ原案ニ加ヘサルハ下文ニ「差出サ

シムルコトアルトキハ」ノ「アルトキハ」ノ文字ニ含蓄セルヲ以テナリ然レトモ敢テ抗辨スルニ非ス若シ夫レ「何時タリトモ」ノ一句ハ治罪法ノ原則ニ拘ハラサルヲ謂フナリ

○議長 二十八番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ二十八番ノ修正説ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責

ニ任スヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事 東京府ヲ除ク

縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

議員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第二讀會ヲ了ル第三讀

會ハ明日第四百三十三號議案ノ檢視會ヲ畢ル後ニ之ヲ開カン蓋シ

下付議案ノ頗ル堆積セルヲ以テナリ本日ハ散會セヨ

午前第十一時四十五分開場

會八四日第四百三十三號議案ノ討論會ニ付テハ...

○議決 全會一致ナルヲ以テ本案ニ付テハ...

議員共立

○議決 本案ニ付テハ...

議令ニ付テハ...

第十人科...

議員共立

○議決 全會一致ナルヲ以テ...

議員共立

○議決 本案ニ付テハ...

元老院會議筆記 明治十七年三月六日

禁傍聽

○第四百三十四號議案

質屋取締第三讀會 第四百三十三號議案
條例ノ儀 檢視會ノ後ニ開場ス

議長 東久世
通禮

出席議員

七番 官本 小一

八番 井田 讓

九番 神田 孝平

十二番 榎村 正直

十三番 大久保一翁

十四番 田邊 太一

十七番 福原 實

十九番 河田 景與

二十番 林 友幸

二十三番 橋口 兼三

二十四番 大鳥 圭介

二十五番 西村 貞陽

二十八番 箕作 麟祥

三十一番 上杉 茂憲

三十二番 鷺尾 隆聚

三十五番 鍋島 直彬

三十七番 津田 眞道

三十九番 伊集院兼寛

四十番 三浦 安

四十一番 西 周

四十二番 長岡 護美

四十五番 神山 郡廉

○番外内閣委員一番参事院議官 水本 成美

○番外参事院議官補 黒田 綱彦

○議長 第四百三十四號議案ノ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

質屋取締條例別紙冊ノ通制定シ來ル 年 月 日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳 東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ

受クヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質主及質入、受戻ノ

年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但證人ヲ要スルトキ

ハ質主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシ

○二十八番 筆作麟祥 本條ヲ修正シテ「受戻」ノ次ニ入換ノ二字ヲ挿填セ

ン思フニ入換ノ一事ハ質入ノ字面ニ含蓄セリト云フ可キモ質入ト

ハ初度ニ典却スルヲ謂フナリ既ニ受戻ノ年月日ヲ調査スルヲ要セ

ハ入換即チ前ニ典却セシ物品ヲ得ン爲メニ他物ヲ以テ之ニ代フル

年月日ヲ調査スルヲ要ス故ニ若シ此二字ヲ増補セサレハ質屋ハ其

物品ノ換替セルモ貸金ニ影響セサル爲メニ年月日ヲ改注セサル可
シ然ルトキハ警察官ノ調査ニ便ヲ缺カントス

○四十番 三浦安 賛成

○九番 神田孝平 賛成

○三十二番 鷺尾隆聚 賛成

○十四番 田邊太一 賛成

○三十七番 津田真道 賛成

○議長 二十八番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番 水本成美 現問題ノ論理ハ本案起草ノ際ニモ頗ル講究セシ所ナ

○リ實ニ發議者モ云フ如ク入換ハ新舊交換ヲ爲ス者ナルカ故ニ質入
ノ字面ニ其意義ヲ含蓄ス論者ハ質屋ノ年月日ノ記載ヲ等間ニ付ス

ル有ラント説ク如クナレトモ是レ其年月日ハ利金ニ影響スルヲ以
テ決シテ記載ヲ忽セニスル者ニ非ス既ニ其記載ヲ怠ラス且質入ノ
字面ニ入換ノコトヲ含蓄スルナレハ入換ノ字面ヲ増補シテ其害ヲ
見サレトモ亦其利ヲ見サルヲ以テ寧ろ原案ニ決センコトヲ望ム

○二十八番 箕作麟祥 番外一番ノ敢テ抗論セサル如ク本官モ亦敢テ執拗

移ラサルニ非ス唯入換ノ字面ヲ増補スル却テ便ナラント思考スル
ノミ蓋シ入換ノ意義ハ質入ノ字面ニ含蓄ス可キモ世俗ノ質入ヲ以
テ初度ノ典却ト做スハ入換ノ慣用語ヲ見テ以テ徴ス可キナリ又其
年月日ヲ記載スルハ利子ニ影響スル爲メニ敢テ或ハ怠ル無シト論
スレトモ其典質ノ契約ハ物品ノ新舊交換セシニ拘ラス依然トシテ
繼續シ以テ其利金ニ影響セサルカ故ニ隨テ年月日ヲ改注セサル可

シ是ヲ以テ苟モ事實ニ害スル無シハ務メテ詳明ナラシメンコトヲ
欲ス

○番二番黒田
網彦

現問題ニ對シテハ番外一番モ事實ニ害スル無キヲ以
テ敢テ抗辨セスト云ヘリ然レトモ若シ入換ノ文字ヲ加ヘント欲セ
ハ滿没ノ期限ニ至リ質物ヲ受戻ス能ハス又其借用ノ元利金ト質物
ノ價直金ト相稱ハサルトキニ更ニ元利金ニ相當スル他ノ物品ヲ補
足スルコト有リ即チ入足シト稱スル是ナリ此入足シノコトモ亦必
ス増補セサルヲ得サラン又三十圓ノ價直ヲ有スル物品ニ對シテ十
圓ヲ貸借シ滿没ノ期限ニ至リ五圓ノ利金ヲ生シ即チ元利金合計十
五圓ニ達シタル時ニ方テハ質入主ト質取主トノ協議ヲ以テ改メテ
元金十五圓ト記載スルコト有リ故ニ苟モ質入ノ年月日ヲ記載セハ

他ニ須ツコト無シ且夫レ入換等ノ如キハ質屋各其家規ヲ異ニシ或
ハ其記載ノ帳簿ヲ別ニシ或ハ元利金ヲ合シテ元金ニ算入シ或ハ最
初記註ノ項側ニ挿記ス故ヲ以テ入換等ノ細事ニ涉ラサルヲ可トス

○四十番三浦
安

番外二番ハ入換ヲ加ヘハ入足シモ然ラント論スレト
モ抑モ入換ハ既ニ典却セシ物品ニ代フル他ノ物品ヲ以テシ即チ滿
没ノ期限前ニ於テスル者ナレハ其物品ノ新ナルニ從ヒ年月日ノ記
註モ亦之ヲ新ニセサル可ラス然ラサレハ其入換ノ年月日ヲ知ルニ
由シ無ラン既ニ入換ヲ加ヘハ入足シハ加フルヲ要セス且此入換入
足シノ外ニハ更ニ其類事ナカル可シト信ス

○議長 二十八番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ二十八番ノ修正説ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

○三十七番 津田眞道 本案ハ僅僅ノ修正ヲ加ヘタルノミニシテ第二讀會

ヲ經過シタルハ各位モ別ニ異論ナキヲ以テナリ故ニ毎條ニ決ヲ取ルハ時間ヲ徒費スルヲ以テ前會ニ修正ヲ加ヘサル條項ハ連帶議決ニ付スルヲ望ム

○議長 次條以下ハ便宜ニ從ヒ或ハ一條或ハ數條ヲ問題ニ付ス可シ乃チ發議ナキヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癪者及雇人 雇主ノ家ニアル者ヨリ質物ヲ取

ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サル、コトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキハ直

ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

○議長 本案ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

○第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏

シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ

若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

○二十八番 箕作麟祥 第七條ニ對シテハ第二讀會ニ疑義ヲ質シ既ニ其主

義ヲ明カニセリ爾時古物商ハ贓物ノ疑ヒ有ル物品ナルモ密告ヲ爲サス質屋ハ密告ヲ爲ス多キヲ以テ此條モ取締上ニ益ス可シト考フレトモ内閣委員ハ密告スルハ當然ナリ密告セサレハ彼レ損失ヲ受ク可シト云フノ意ヲ述ヘタリ故ニ修正ヲ加ヘント欲スレトモ其修正ノ文案タル第七條ヨリ第十二條マテノ間ニ挿入スルヲ得ス是ヲ

以テ古物商取締條例ニ倣ヒ第十六條ノ次ニ加ヘント欲ス第二讀會
ノ論說ヲ持スル爲メニ豫メ此ニ一言ス

○三十五番 鍋島直彬 第十一條ヲ修正セン古物商取締條例ニハ「届出ツヘ

シ若シ届出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ

刑ニ同シト言ヒ本案ハ此若シ云云ノ一活路ヲ與フルヲ缺ケリ即チ

○届出ヲ爲ササルハ全ク類似ノ物品タルヲ知ラサルモ早ク既ニ二百

圓以下ノ罰金ニ處セラル蓋シ届出ヲ爲ササルトキハ其事由ヲ充分

ニ辨解シ以テ始メテ有意ヲ以テ違反シタルヤ否ラサルヤヲ明ニス

ルヲ得シノミ故ニ届出ヘシ若シ届出テスシテ其理由ヲ辨明スルコ

ト能ハサル者ハ第十四條ノ罰金ニ處スト修正スルヲ要ス

○議長 三十五番ノ動議ハ賛成者無キヲ以テ消滅ス乃チ本案ニ決シ

次條ニ移ル

書記官 森山茂

朗讀

第十三條 警察官ニ於テ質屋ノ店舗ニ臨ミ質物及簿冊ノ検査ヲ爲

シ其質物ヲ差押ヘ又ハ所轄警察署ニ於テ検査ノ爲メ簿冊ヲ差出

サシムルコトアルトキハ何時タリトモ之ヲ拒ムコトヲ得ス

○二十三番 橋口兼三 本條ハ古物商取締條例ニ倣ヒ起草シタル者ナラン

然レトモ警察官ニ於テ質屋ノ店舗ニ臨ミ質物及簿冊ノ検査ヲ爲シ

云云ト掲クルトキハ警察官ハ必ス店舗ニ臨ミ質入主ノ妨ケヲ爲ス

ニ至ル可シ故ニ警察官ハ質屋ニ於テ質物及簿冊ノ検査ヲ爲シ云云

ト修正セント欲ス

○議長 本案ハ第二讀會ニ於テ警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舗ニ

臨ミ云云ト修正セシナリ

○二十三番 橋口 兼三 昨日ハ缺席セシヲ以テ其修正ヲ詳ニセサレトモ前

陳ノ説旨ハ敢テ變更セス苟モ店舗ニ臨ミト云ヘハ警察官必ス店舗

ニ臨マサルヲ得スシテ其區域狹隘ナリトス畢竟検査スレハ足ルナ

リ其之ヲ検査スルニハ必シモ店舗ニ限ラス別室ニ於テスルモ可ナ

リ故ニ本官ノ修正ノ如クセハ検査官ハ便宜ノ方法ヲ取テ検査セン

トス

○議長 二十三番ノ動議ハ賛成者無キヲ以テ消滅ス

○二十四番 大鳥 圭介 簿冊ヲ帳簿ト修正セン本案ノ他條ニハ簿冊ノ字面

ヲ見ス而シテ實際ニ於テハ帳面ト稱呼シ即チ臺帳賣掛帳等ノ稱目

ヲ以テス若シ夫レ古物商取締條例ハ簿冊ノ字面ヲ以テ全案ヲ一貫

スルカ故ニ可ナレトモ同一義ノ名詞ニシテ前後其字面ヲ異ニスル
ハ法律ノ體裁ニ非サルナリ

○二十五番 西村 貞陽 賛成

○二十八番 箕作 麟祥 賛成

○二十番 林友 幸 賛成

○十四番 田邊 太一 賛成

○四十番 三浦 安 賛成

○議長 二十四番ノ修正ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 二十四番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ二十四番ノ修正説ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂

朗讀

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以

上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其

營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○議長 本案ニ決シ次條ニ移ル

○二十八番 箕作麟祥 豫陳セシ如ク第十六條ノ次ニ新第十七條ヲ設ケン

其案文ハ呈シテ議長ノ机下ニ在リ書記官ヲシテ朗讀セシメント
ヲ望ム

書記官 森山茂

朗讀

第十七條 第七條ノ密告ヲ爲シタル物品贓物ニ係ルトキト雖モ被

害者ヨリ其元金ヲ償フニ非サレハ之ヲ還給スルニ及ハス

○二十八番 箕作麟祥 此修正ハ即チ從來ノ慣習ニ沿ルナリ抑モ組合質屋

ニ密告ヲ爲サシムレハ盜賊ヲ捕縛スル便宜アルヲ以テ大ニ其勸獎

ヲ謀ラサル可ラス新刑法附則施行以來質屋ノ密告ヲ爲シタルトキ

其密告果シテ實ヲ過マラサレハ被害者ノ要求ニ應シ元利金ヲ全損

シテ物品ヲ被害者ニ還給セサルヲ得ス故ニ如何ナル取締法ヲ設ル

モ損失ヲ好マサルハ人情ナルヲ以テ質屋ハ密告ヲ爲ササル可シ然

レハ則チ第七條ノ存スルモ實際ニ益スル無シ質屋ハ必ス云ハン身

柄不相應ト認メサリシト此ノ如ク虛辭ヲ張テ以テ法律ヲ遁レ終ニ

從來ノ慣習ニ於ル取締上ノ良方法ヲ無用ニ屬セシメントス舊幕府

政府ニ於テモ密告ヲ爲ササレハ手錠ヲ施サレ密告ヲ爲セハ賞例ニ入ラサルモ被害者ノ元金ヲ償フニ非サレハ物品ヲ還給セサルヲ得タリ此方法タル諸藩ノ概ネ遵用スル所ナリ儘或ハ被害者ト質取主トノ兩損ニ歸スル制度ヲ行フ有リシモ今日ニ在テハ刑法附則第五十六條ノ明文アルヲ以テ獨リ質屋ノ損失ト爲ルナリ但シ本官ノ説ニ從ヘハ被害者ハ既ニ盜難ニ罹レルニ又更ニ金ヲ出シテ其物品ヲ得ルナレハ彼ノ盜賊ニ負錢ノ諺語ニ同シキ不幸ヲ與フルニ似タレトモ只是レ理論乃チ然ルノミ若シ單ニ質屋ノ損失ニ歸セシメハ其贓物ハ終ニ被害者ノ手ニ還ラサル可ク唯能ク元金ヲ拂フテ以テ之ヲ取ルコトヲ得ヘキナリ且夫レ其貸金額ノ若シ物品ノ實價ニ相當セラルナラハ則チ大損ヲ被フル可キモ質屋ノ金ヲ貸スハ決シテ然ラス

例ヘハ百圓ノ物品ナレハ四十圓内外ヲ貸スヲ常トス故ニ密告ニ因テ其物品ノ所在ヲ明カニセハ被害者ハ四十圓ヲ損シテ六十圓ヲ益ス即チ四十圓ヲ出シテ百圓ノ物品其手ニ還ルナリ第七條ハ單ニ質入ノ際ニ限ラス或ハ質入ノ後ニモ亦此場合ノ在ル有ラン要スルニ道理上ヨリ云ヘハ盜賊ニ負錢ノ看ナキニ非サレトモ四十圓ヲ損シテ六十圓ヲ得ハ可ナラン但シ利金ハ質屋ノ損ニ歸セシム可シ是等ハ刑事附帶民事訴訟ヲ起スモ可ナリ此賠償如何ハ姑ク措キ專ラ密告ノ効用ヲ充分ニ奏セシムルニハ本官ノ説ノ如クセサル可ラス蓋シ質屋モ財利ヲ主ト爲ス營業ナレハナリ古物商取締條例第二十一條モ刑法附則ニ拘ラサル者ナリ其之ニ拘ハラサルハ實際ノ取締上ニ便スルカ爲メノミ而シテ新第十七條ト爲ス所以ノ者ハ本案第十

六條ノコトヲ彼ニハ第二十條ニ置クカ故ニ恰モ其對照ヲ得タリト
ス「雖モ」ノ字面ハ甚タ好マサル所ナレトモ是レ刑法附則ノ原則ニ對
シテ已ムヲ得サルナリ其他妥當ナラサル字句ハ各位ノ是正ヲ仰ク
唯其精神ヲ賛成センコトヲ望ム要スルニ理論ニ拘セス舊慣ヲ壞ラ
ス本案ノ主義ヲ貫キ密告ノ効用ヲ奏セシメン爲メニ修正スルコト
爾リ

○三十五番 鍋島直彬 賛成

○三十一番 上杉茂憲 賛成

○二十番 林友幸 賛成

○十四番 田邊太一 賛成

○七番 宮本小一 賛成

○九番 神田孝平 賛成

○議長 二十八番ノ修正ハ定數以上ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス
○番外一番 水本成美 本案ハ僅僅タル修正ニシテ第十六條マテハ經過シタ
ルヲ以テ已ム可クンハ沈黙セント欲スレトモ現問題ニ對シテハ一
辨セサル可ラス抑モ發議者ハ昨日番外二番ノ引例セシ舊幕府及ヒ
諸藩ノ制度ニ基キ密告ノ實効ヲ擧ケシメント欲スルヲ主義ト爲ス
ヲ以テ稍ヤ理由ノ存スル有ルニ似タレトモ亦是レ皮膚ノ見解ノミ
番外二番ノ被害者ヨリ元金ヲ償フニ非サレハ質屋ハ贓物タルニ拘
ラス之カ還給ヲ肯セサルノ制度ハ舊某藩ノ行ヘル所ナラン本官ハ
寛永以來舊幕府ノ制度ト今日各縣ヨリ上申セル舊諸藩ノ制度トヲ
調査セシニ實ニ番外二番ノ引例セシ如キ者ヲ見ル然レトモ番外二

番ハ僅ニ其部分ヲ見テ未タ其全體ヲ知ルニ及ハス舊幕府ハ寶永三年丙戌十月十三日ノ質物ニ關スル町觸ノ條項中ニ「若盜物質物ニ取之或者買取候者有之候ハ、吟味上雜物取上之主エ相渡代金者損ニ爲致其上品ニ寄過怠可申付候間右之趣質屋古着屋共急度可相守者也」ト載見ス此過怠トハ永十貫文ノ罰則ナリ雜物トハ贓物ナリ天保十三年壬寅年ノ町觸ニ身分不相應ニ有之歟又ハ怪敷相見候分ハ先先遂吟味品ニ寄其モノヲ留置月番ノ町奉行所へ可訴出若盜物等質ニ買取取候モノ有之ニヲイテハ吟味ノ上右品取上代金ハ損失爲致品ニ寄咎可申付ト言ヒ降テ嘉永弘化ニ至ル亦皆然リ德島藩ノ質屋取締ニ關スル達書ニ「取質之内盜ミ物等入交リ有之候節被盜主尋當リ候テ受引ニケ月ニ相限候事ニケ月之内受引致候得ハ利足

用捨其月過候得ハ取元月ヨリ之利足請取可申事」御場處ノ御品不心付取置賊御召捕之上相顯候得ハ無代ニテ被召上候事ト言ヒ安政三年丙辰大坂町奉行ノ掟書ニモ「質屋年寄ニ於テハ紛失似寄ノ品有之旨届出候ハ、置主受人取調其旨町奉行所へ届出奉行所ニ於テ調濟ノ上ハ其品質屋年寄へ御下相成質屋年寄ヨリ被盜主へ下ケ戻候事但シ被盜主無届又ハ其主不相知節ハ質業ノ者へ下ケ渡候事ト言ヒ此他福井藩等ハ皆幕府ノ例法ヲ守レリ幕府及ヒ諸藩ノ制度ハ前陳ノ如クナレトモ取締上ニ於テ密告セシムルヲ要スル本案第七條ノ主眼ヲ貫クニハ下付原案ノ能ハサル所ナリト論スレトモ決シテ之カ爲メニ密告者ノ數ヲ減スルコト無シ第七條ノ正面ハ贓物ノ疑ヒ有ル物品ヲ齎シ來ルトキハ其人物ヲ留置シテ直チニ密告セ

ヨト云フニ非ス苟モ密告セハ其質取セル前後ヲ問ハサルナリ非常ニ多慾ナル者ニ非サルヨリハ贓物ノ疑ヒ有ル物品タルヲ知りナカラ之ヲ質取シ而シテ官府ニ告ケサル者ハ無カル可シ第五條第三項ニ「前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サル、コトアルヘシ」ト言ヘリ故ニ縱令官廳町村學校病院社寺等ノ物品ハ特別ト看ルモ第五條ニ違背スレハ元利金ヲ失ヒ一個人ニ對シテハ利金ヲ失フト爲スハ能ク其條理ヲ貫クト云フヲ得ヘキヤ若シ然ル如クンハ萬一違法ノ物品ナルモ一個人ニ對スル者ナルヲ以テ其損失ハ利金ニ止マルトシテ僥倖ヲ謀ル無キヲ保セス各位願クハ熟考センコトヲ

○三十四番 大鳥圭介

本官モ現問題ノ賛成者ナリ因テ發議者ニ問フ贓物

ヲ質取スルモ密告ヲ爲ストキハ被害者其元金ヲ償ハサルヲ得スト云フハ恐クハ私有ノ物品ニ關スル者ナラン第五條ニ官廳等ノ物品ハ元利金ヲ償フコト無クシテ還取スルコトヲ言ヘリ蓋シ現問題ハ密告ヲ催カス方便ナル可キモ其齎シ來レル物品ノ若シ官有ニ係ラハ之ヲ爲ス如何ン

○二十八番 箕作麟祥

第五條ハ盜贓物品ノ如何ニ拘ラス尋常人ノ典却シ

得サル者ナルヲ以テ其典却シ得ル者ナルヲ證明スル證人ヲ要スルナリ盜贓ノ物品ニ係レハ第五條ニ關係セス番外一番ハ何ノ爲メニ第五條ヲ引證セルカ若シ官物ト雖モ盜贓ニ係ラハ是レ官府ヲ看テ一個人ト做セハ官府ハ即チ被害者ナリ故ニ證人二名ヲ立ルモ官物ニ贓品ナキヲ斷スル能ハス故ヲ以テ其場合ニ於テハ官府ヲ被害者

ト爲シ元金ヲ償ハシムルヲ要ス看ヨ官府ト雖モ民事附帶ノ詞訟ヲ起ス有ルニ非スヤ

○三十五番鍋島直彬 番外一番ハ原案維持説ヲ爲シテ第五條ト權衡ヲ失フヲ説ケリ此説ハ二十八番ノ分明ニ辨排セル有リ又番外一番ハ寶永以降ノ舊例ヲ引キ密告セサル贓物ハ被害者其元金ヲ償フ無クシテ之カ還付ヲ求ムルヲ得タリト云ヘリ是レ當時人情風俗ノ質樸淳茂ニシテ今日ノ奸猾詐黠ナル如キニ非サルト贓物ナルヲ覺知セサルモ官府ハ贓物ヲ隱匿セリトスル壓制法ヲ以テ責罰スルトノ爲メニ密告者ノ多カリシナラン今日ハ贓物ナルヲ覺知シテ隱匿セリト云フモ實ニ其隱匿シタル證據ヲ得ルニ非サレハ其罪ヲ斷スル能ハス而シテ人情ハ巧ニ法網ヲ脱スル習風ヲ成セリ豈何ソ寶永時代ノ

事例ヲ以テ今日ヲ概論スルヲ得ンヤ故ニ現問題ヲ贊成シテ番外一番ノ辨論ヲ反駁スルコト爾リ

○三十七番津田真道 番外一番ノ辨論ハ舊幕府ノ法制ハ原案ノ如ク阿波藩ノ制度ハ現問題ノ如シト云フニ似タリ然ルニ如何ナル風潮ノ致ス所ナルヤ數年以來贓品ノ被害者ノ手ニ還ル者ハ百中ノ一ニ居ラサルヲ見ル其理由ハ許多ナル可キモ刑法治罪法ノ創定亦其一ニ在ラン今ヤ古物商取締條例ニ次キ更ニ本案ヲ施行セハ多少贓物ノ被害者ニ還ルヲ見ル可シ抑モ贓物タルヲ覺知セスシテ質取シタル者ヲ元利金ヲ償ハスシテ還給セシムルハ質屋ニ在テハ大損失ヲ免レス然リト雖モ之ヲ全國ニ推論スレハ質屋ハ少數ニシテ被害者ハ多數ナリ此多數ノ爲メニハ少數ノ損失ヲ顧ミル可キニ非ス是レ實ニ

法律ノ原則ナリ但シ法律ノ原則ハ前陳ノ如シト雖モ贓品ノ被害者ニ還ルハ亦稀ニ聞ク所トス現問題ニ據レハ刑法附則ノ主義ニ違ヒ贓物ノ發見シタルトキ被害者其元金ヲ償ハサレハ還給ヲ求ムルコトヲ得ス故ニ法律面ヨリ之ヲ觀レハ多數人民ノ損失ニ歸スル如キモ之カ爲メニ盜品ノ其手ニ還ルハ亦利益ナラサルニ非ス蓋シ質屋ハ百圓ノ實價ヲ有スル物品ニハ大抵二三拾圓ヲ貸ス者ナレハ被害者ハ百圓ノ物品ヲ得ル爲メニ二三拾圓ヲ損スルノミ故ニ舊慣ニ反キ刑法ニ悖ルモ苟モ贓物ノ被害者ニ還ル利益アルヲ見レハ實ニ今日ニ適應セル活法ト信ス要スルニ多數人民ノ利益ヲ謀ル爲メニ二十八番ノ修正ヲ賛成ス

○四十番 三浦安

本問題ハ用意周到ナル修正ナレトモ本官ハ之ヲ賛成

スル能ハス抑モ二十八番ノ舊慣ヲ存セントスルハ取ル可キニ似タレトモ其論據ハ唯一德島藩ノ事例アルノミ舊法ト云ハ即チ舊幕府ノ制度ニシテ海内過半之ヲ遵奉セシナリ但シ法制ハ各國ニ斟酌スル者ナレハ苟モ其理由ノ正當ナルヤ之ヲ外國ニ取ルモ可ナリ又外國ニ類例ヲ見サル法律ナルモ其理由ノ正當ナルヤ之ヲ新設シテ可ナリ只恨ム密告スレハ元金ヲ失ハスト云フハ即チ爲メニ僥倖ノ門ヲ啓キ疑似ノ物品ナルモ元金ヲ失ハサルヲ以テ之ヲ質取シ而シテ密告ヲ爲ス可シトスル蠹弊ヲ生センコトヲ古物商取締條例及ヒ本案ハ皆共ニ盜賊ヲ減少セシムル主旨ニ成レリ不正品ヲ買取スル者アルカ爲メニ盜賊乃チ多シ其不正品ノ多ク集聚スル古物商ヲ檢束セハ質屋モ亦其一ニ居ルヲ以テ亦之ヲ檢束セサル可ラス密告ニ

因テ贓物ノ發見ヲ期センヨリハ贓物ノ藏處ヲ絶ツヲ謀ルヲ第一捷
 法トセンノミ若シ其藏處ノ在ル有ラハ贓物假令發見スルモ盜賊ノ
 減少スルヲ望ム可ラス古物商モ買取セス質屋モ買取セスシテ利用
 ノ途ヲ絶スルヨリシテ盜賊始メテ減少スルナレハ宜ク原案ノ如ク
 密告ヲ爲ス可シ然ラスハ罰ニ處スルト爲スヘキナリ公商ノ外ハ
 元利金ヲ償ハスシテ之ヲ沒收スルヲ當然ナリトス刑法ノ改正ハ本
 官素ヨリ望ム所ナリ古物商取締條例モ刑法ノ寬大ニシテ盜賊ノ懲
 戒ヲ爲スニ足ラサルヲ以テ刑法ヲ打破シ第二十一條ノ嚴法ヲ設ケ
 タルナリ今ヤ本案モ亦刑法ノ寬大ヲ避ケテ嚴格ニ向ハシムル者ナ
 レハ猶ホ望ム所ナレトモ却テ刑法ノ寬大ニ加フルニ一層ノ寬大ヲ
 以テスルハ甚タ好マサル所ナリ又其便利ヲ與フレハ密告ヲ爲スト

云フハ想像論ノミ何トナレハ密告シテ元金ヲ失ハサルモ亦別ニ利
 益ヲ得ルニ非サレハナリ但シ嚴罰ヲ怖レハ密告ヲ爲ササル可ラサ
 ルノミ第八條ノ如ク目錄ヲ調査セラレ贓物ヲ買取スレハ罰責セラ
 レ又第十五條ノ如ク一年内ニ再犯スレハ營業ヲ禁停セラルルコト
 ヲ示セハ足レリ故ニ便利ヲ與ヘサルモ密告ヲ爲ササル可ラサルナ
 リ若シ之ヲ怖レハ買取ヲ謝絶セハ可ナリ又被害者ハ三分ノ一ヲ失
 フテ原品ヲ得ル利益アル可キモ盜賊ヲ防ク爲メニハ便ナラス本案
 中若シ密告セサルモ可ナリトスル明文アラハ現問題ヲ要ス可キモ
 敢テ然ルニ非ス故ヲ以テ密告セサル罰則アレハ足ル要スルニ盜品
 發見ノ稀少ナルヨリ質屋ニ便宜ヲ與ヘテ之ヲ濟ハレヨリハ贓物ノ
 藏處ヲ絶ツニ期スルヲ上策トセンノミ

○二十八番 麟作

麟祥

四十番ハ用意周到ナル問題ナレトモ盜賊ヲ増滋ス

ル者ナルヲ以テ賛成スル能ハスト云ヘリ蓋シ質屋ハ悉ク道德ヲ重
ンスル者ニ非ス故ニ第七條ノ存スルモ恐クハ其効用ヲ見サラン思
フニ第七條ノ存スルモ現問題ヲ缺クトキハ密告ヲ爲スヤ處罰セラ
ルル痛苦アル爲メニ彼レ必ス贓物ノ疑ヒ有ル物品ト認メス身柄不
相應ト認メサリシト供述セントス其レ將タ尙ヲ以テ之ヲ罰ス可キ
ヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ刑法ニ於テ所有權ヲ確定スルモ贓物ハ質屋
ノ密告セサル爲メニ被害者ノ手ニ還ラサル可シ然ラハ則チ盜賊ニ
利セスシテ何ソヤ商人ハ利ヲ欲スル者ナルヲ以テ現問題ノ如クセ
ハ始メテ密告ヲ爲ス可キノミ此密告モ敢テ疑ヒ有ル人物ヲ執ヘテ
始メテ之ヲ爲スニ非ス疑ヒ有ル物品ヲ齎シ來ルトキニ於テ疑フ可

キ人物ナルコトヲ豫メ官府ニ密告シ官府ハ所謂網ヲ張テ捕縛ノ準
備ヲ爲スナレハ獨リ物品ニ對スルノミナラス盜賊ヲ捕縛スル爲メ
ニ密告セシムルナリ蓋シ本案ハ正人ノ爲メニ要スルニ非ス不正人
ノ爲メニ要スル者ナリ況ヤ全ク質屋ノ損失ニ歸セシメハ彼レ決シ
テ密告セサル可キヲヤ四十番ハ密告ノ數ヲ増ス可シト云フハ想像
論ナリト云ヘリ是レ實ニ想像論ナリ然リト雖モ密告ノ爲メニ盜賊
ノ捕縛セラレタル多キハ曾テ稔聞セル所ナリ又質屋ハ利金ヲ目的
ト爲スナレハ元金三十圓ヲ得ルモ其元金ニ生スル利金ヲ得サレハ
同ク損失ナリト云ヒ質屋ハ贓物ニ疑ヒ有ラハ質取ヲ謝絶スルモ可
ナリト云フハ何ソヤ質屋ニシテ若シ然ク隨意ノ處置ニ出テントセ
ハ顧者ナキニ至ル可シ何ノ營業ヲカ之レ爲サンヤ又利金ヲ得スン

ハ同ク損失ナレハ何ソ密告ヲ勸奨スルニ足ランヤト云フモ利金ヲ
 損失スルト元利金ヲ損失スルトノ輕重ハ言ハスシテ分明ナラン巨
 商ハ尤モ元金ヲ重ンスルカ故ニ信用ヲ墜ササル爲メニ縱令疑ヒ有
 ル物品ナルモ之ヲ質取シ而シテ密告シテ元金ヲ失ハサルト世人ノ
 信用ヲ墜ササルトヲ謀ルナリ又刑法ヲ嚴重ニ改ムルハ可ナレトモ
 寬大ニ改ムルハ不可ナリト云ヘリ是レ質屋ニ對シテ起論セハ寬假
 ナルモ盜賊ニ對シテ起論セハ苛酷ニ非スヤ四十番ノ論旨ハ全ク本
 官ノ論旨ニ反對ス要スルニ原案ハ體面ハ頗ル好キモ實際ニ適セス
 本官ノ修正ハ質屋ニハ寬假スルニ似タレトモ其實盜賊ニハ嚴密ナ
 リトス

○二十三番橋口兼三

本官ハ第七條ハ難題ニ非スト信ス元來贓物ノ疑ヒ

有ル物品ハ直チニ之ヲ質取スルニ非ス先ツ其物品ノ佳惡精粗等ヲ
 評論シテ時間ヲ延へ間ニ乘シテ巡行ノ査官等ニ密告セシムル爲メ
 ノ條則ナリ況ヤ警察官ノ検査ニ因テ贓品ノ發見スル恐レ有レハ人
 情上ニ於テ疑ヒ有ル物品ヲ質取スルコト無カル可シ要スルニ古物
 商取締條例ト本案トハ盜賊防止ノ法案ナレハカメテ其目的ヲ貫徹
 セシムルヲ要ス古物商取締條例第二十一條ニ此條例ヲ犯シテ買取
 リ又ハ交換シタル物品贓品ニ係ルモノハ營業者タルト否トヲ問ハ
 ス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付ス可シ若シ被害者知レ
 サルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒スト言ヘリ本案モ亦此ノ如キ
 條則ヲ立テサル可ラスト信ス然ルニ本案ニ此處分法ヲ掲ケサルハ
 何ソヤ前會ニ缺席シテ其理由ヲ質スコトヲ得サリシヲ以テ今此ニ

之ヲ掲ケント欲スル理由ヲ主張スル能ハサルナリ但シ四十番ノ刑法ヲ嚴重ニ打破スルハ可ナレトモ寛大ニ打破スルハ不可ナリトスル論旨ハ本官ノ尤モ同意スル所トス他ナシ是レ盜賊防止ニ供スル法案タルヲ以テナリ

○議長 二十八番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者十人

○議長 少數ナルヲ以テ二十八番ノ修正説ハ消滅ス乃チ次條ニ移ル
書記官 森山 朗讀

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府 除ク

縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ茲ニ第三讀會ヲ了ル本會ニ於テ多少ノ修正ヲ加ヘタルヲ以テ更ニ確定ノ決ヲ取ラン本案ヲ以テ確決ト做スニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本會確決會ヲ了スト做シ修正ノ理由ヲ具シテ上奏セン明日ハ第四百三十六號議案ノ第一讀會ヲ開カン蓋シ特ニ内閣ヨリ急速ニ議決上奏セヨト通牒シタルカ爲メナリ本日ハ散會セヨ

午後零時四十分閉場

元老院會議筆記 明治十七年三月十九日

禁傍聽

○第四百三十五號議案

證券印稅規第一讀會
則改正ノ儀

議長 佐野
常民

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 二番 | 渡邊 洪基 |
| 三番 | 東久世通禧 |
| 七番 | 官本 小一 |
| 八番 | 井田 讓 |
| 九番 | 神田 孝平 |
| 十二番 | 榎村 正直 |
| 十三番 | 大久保一翁 |

- 十四番 田邊 太一
- 十七番 福原 實
- 十九番 河田 景與
- 二十番 林 友幸
- 二十一番 伊丹 重賢
- 二十四番 大鳥 圭介
- 二十五番 西村 貞陽
- 二十六番 野村 素介
- 二十七番 渡邊 清
- 二十八番 箕作 麟祥
- 三十番 柴原 和

- 三十一番 上杉 茂憲
- 三十二番 鷺尾 隆聚
- 三十五番 鍋島 直彬
- 三十六番 細川潤次郎
- 三十七番 津田 眞道
- 三十九番 伊集院兼寛
- 四十番 三浦 安
- 四十一番 西 周
- 四十二番 長岡 護美
- 四十五番 神山 郡廉
- 内閣委員 一番 参事院議官 渡邊 昇

同 番外參事院員外議官補神鞭 知常

同 番外參事院議官補 小池 靖一

午前第十時二十五分開場

○議長 本日ハ第四百三十五號議案ノ第一讀會ヲ開ク本案ハ條數頗ル多キヲ以テ朗讀ハ布告案ニ止ム

書記官 森山 朗讀

布告案

明治七年^七月第八拾壹號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七

年 月 日ヨリ施行ス

但明治八年^七月第百貳拾號布告ハ同日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

證券印紙稅規則

第一條 凡ソ財產ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規

則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

一當座預リ金引出小切手

印稅 五 厘

一委任狀

同 五 厘

- 一金高記載ナキ約定證文 同 壹錢
- 一遺物證文 同 壹錢
- 一跡式讓證文 同 壹錢
- 一讓與證文 同 壹錢
- 一期限ヲ定メサル預リ金證文 同 壹錢
- 一耕地小作證文 同 壹錢
- 一雇人請合狀 同 壹錢
- 一金高記載ナキ諸物品預リ證文 同 壹錢
- 一金高記載ナキ諸物品借用證文 同 壹錢
- 一地所預リ證文 同 壹錢
- 一家屋預リ證文 同 壹錢
- 一諸物品切手 同 壹錢

- 一借地證文 同 壹錢
- 一借家證文 同 壹錢
- 一賣買仕切書 同 壹錢
- 一保險證文 同 壹錢
- 一送金手形 同 壹錢
- 一金錢通帳 一年以内一冊ニ付 同 壹錢
- 一諸物品 同 壹錢
- 一金錢判取帳 同 貳拾錢
- 一諸物品 同 貳拾錢
- 一結社約定書 同 壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ
 確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載ア
 ル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル所

ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一營業ニ關スル送狀 印税 壹錢

一營業ニ關スル請取書 同 壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙

ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ

以テ印紙ヲ貼用スヘシ但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘ

シ

一金錢借用證文

一地所賣買證文

一金高記載アル諸物品預リ證文

一金高記載アル諸物品借用證文

一諸物品賣買證文

一金錢定期預リ證文

一金高記載アル諸般ノ契約證書

金高貳拾圓未滿 印税 壹錢

金高貳拾圓以上五拾圓未滿 同 貳錢

金高五拾圓以上百圓未滿 同 四錢

金高百圓以上百五拾圓未滿 同 六錢

金高百五拾圓以上貳百圓未滿 同 八錢

金高貳百圓以上三百圓未滿 同 拾壹錢

金高三百圓以上四百圓未滿	同	拾四錢
金高四百圓以上六百圓未滿	同	貳拾錢
金高六百圓以上八百圓未滿	同	貳拾六錢
金高八百圓以上千百圓未滿	同	三拾貳錢
金高千百圓以上千四百圓未滿	同	三拾八錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿	同	四拾四錢
金高千七百圓以上貳千圓未滿	同	五拾錢
金高貳千圓以上貳千五百圓未滿	同	六拾錢
金高貳千五百圓以上三千圓未滿	同	七拾錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿	同	八拾錢
金高三千五百圓以上四千圓未滿	同	九拾錢

金高四千圓以上總テ

同 壹 圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅 四 錢

金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一 質物預リ書札

金高壹圓以上貳拾圓未滿

印稅 壹 錢

金高貳拾圓以上

同 貳 錢

一 爲替手形

一 荷爲替手形

一 約束手形

金高五拾圓未滿

印稅 壹 錢

金高五拾圓以上百圓未滿

同 貳 錢

金高百圓以上貳百圓未滿

同 四 錢

金高貳千圓以上五百圓未滿

同 八 錢

金高五百圓以上千圓未滿

同 拾五 錢

金高千圓以上貳千圓未滿

同 貳拾五 錢

金高貳千圓以上總テ

同 五拾 錢

左ニ掲クル所ノ帳簿ハ附込見積金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所

ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一金錢當坐預リ證文 通帳

一質物通帳

金高百圓未滿

印稅 貳 錢

金高百圓以上

同 四 錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名

稱ニ拘ラス稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印

紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル

後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳

簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證

書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ受ルモノニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一 官廳ヨリ差出ス證書及ヒ帳簿

一 官吏準官吏若クハ法律又ハ令達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ従事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一 國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一 爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書又ハ帳簿

一 金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ爲換方ヨリ差出ス請書

一 諸上納金ニ付爲換方ヨリ納人へ差出ス請取證書

一 罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第

十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未
タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得
此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ
増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國
ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ
異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏
書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳
簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用
不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足税ノ手形用紙ヲ
用ヒタルモノハ脱税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿
ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲
サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印税高十倍ノ科料又ハ
罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シ
タルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰

金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ検査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上

二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓

以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一

圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒

收シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減

輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○外一番渡邊

例ニ從ヒ本案ノ發布ヲ要スル理由ヲ陳述セン證券印

税法ヲ施行セル以來已ニ數年ノ實驗ヲ經テ其允當ナラサル者甚タ

多キヲ發見シ以テ今回ノ改正ヲ要スルニ至レリ抑モ此印紙ノ要用

ハ彼此ノ關係ニ生出ス然ルニ各官モ知悉スル如ク人民ノ使用スル

帳簿即チ質屋ノ本簿其他入舟帳大福帳ノ如キニ至ルマテ悉ク印紙

ヲ貼用セシメタルハ尤モ允當ナラス且夫レ現行規則ハ實際往々得

テ施行ス可ラサル者アリ蓋シ犯則者ハ責罰スルモ可ナレトモ殆ン

ト其多キニ勝ヘサルナリ故ニ實際此印紙ヲ貼用スルハ裁判所ニ出

入スル者ニ限ルト云フモ誣タリトセス其甚キニ至テハ貸借證書ニ

貼用ス可キ印紙ヲ小紙袋ニ盛リ證書ニ添テ債主ニ送付スル有リト

聞ク今此弊ヲ矯ントスルヤ多數ノ吏員ヲ用ヒサル可ラス故ニ帳簿

上彼此對照ニ緊要ナル者ノ外ハ印紙ヲ貼用セシメサルヲ可トス又
 現行規則ノ貸借金額ニ比例スル印紙稅ハ頗ル重キニ過ルヲ以テ今
 回ハ之ヲ輕クシ以テ充分ニ實行セント欲ス本案第五條ノ如キ從前
 ハ義務者ト權理者トヲ問ハス其一人ニ銷印セシメタルモ今回ハ必
 ス義務者ニノミ銷印セシムルヲ改正ノ主眼ト爲ス請フ各官此意ヲ
 領シ速ニ議定センコトヲ

○二番 渡邊 洪基 本案ヲ通觀スルニ甚タ簡明ナリトス畢竟證券印紙ハ契
 約ヲ確定スル爲メニ要スル者ニシテ訴訟用印紙ト密着ノ關係ヲ有
 シ民事上ノ裁判費用ト同シク皆此印紙ヲ貼用セシメ以テ權利ヲ保
 護スルニ在リ然ルニ現行規則ニ於テハ人民ノ財產ヲ記載スル帳簿
 ニマテ之ヲ貼用セシムルハ甚タ允當ナラス故ニ本案ハ之ニ反シ頗

ル適當ヲ得タリト雖モ其間却テ現行規則ヨリ過重ナル者アリ何ソ
 ヤ從來十圓未滿ハ界紙ヲ用ヒ十圓以上ハ印紙ヲ貼セル引出切手遺
 物證文等モ悉皆壹錢印紙ヲ貼用セシムル是ナリ又質物證文ノ印稅
 ヲ一錢ト爲スハ過重ニ似タリ然ルモ既ニ印稅ノ一錢ヲ最下額ト定
 メタル以上ハ已ムヲ得サルノミ因テ本案ノ大體ヲ贊成ス

○三十七番 津田 眞道 本官モ本案ノ大體ヲ贊成ス然ルニ怪シム可キ一
 ノ在ル有リ元來證券印紙ハ證書ヲ確實ナラシムル爲メニ貼用セシ
 ムト云フモ到底政府ノ歲入ヲ増加スル方便ニ外ナラス何トナレハ
 縱令印紙ヲ貼用セサルモ貸借ノ事實ハ決シテ空無ニ歸ス可キニ非
 サレハナリ且其罰金ヲ責徵スルモ亦是レ歲入ヲ増加スル爲メナラ
 シ大藏省ノ調査ニ據ルニ印稅徵收額ハ明治十年ニハ八十萬圓十二

年ニハ八十餘萬圓ナリシニ本年度ノ豫算ニハ六十餘萬圓ト爲シ俄ニ二十萬圓餘ヲ減少ス内閣委員ノ説明セル如ク規則ノ允當ナラサル爲メニ陸續犯者ヲ生スルヲ以テ今回之ヲ改正スト云フハ實ニ正大公明ノ議論ナレトモ現今諸稅ヲ増加スルモ政府尙ホ收入ノ缺耗ニ苦ムニ似タリ然ルニ今此證券印紙ノ改正ニ因テ二十萬圓ノ收入ヲ減スルトキハ大ニ他ノ増稅ノ傾向ト相反ス是レ本官ノ怪シム所ナリ然レトモ政府ハ斷然ニ公平ノ主義ヲ執リ縱令大藏卿ノ調査ニ於テ收入ヲ減スルモ其規則ノ允當ナラサル者ハ必ス改正セサルヲ得ストセハ本官ハ其正大公明ノ法案タルヲ欽スルノ外ナキナリ

○番一 渡邊 昇 三十七番ノ疑議ハ甚タ理アリ然レトモ其所謂本年度ノ豫算ハ六十餘萬圓ニシテ十年度十二年度等ニ比較スレハ二十萬

圓ヲ減スルハ何等ノ調査ニ出タルヤヲ知ラサレトモ内閣ニ於テハ到底今日ニ豫算スル能ハスト信スルナリ故ニ増減何如ノ質問ヲ受ルモ本官之ニ確答スル能ハス思フニ全國中貸借其他ノ事故ノ繁多ナル本案ノ輕稅ニ變スル以上ハ復タ敢テ些少ノ金錢ヲ吝ミテ奸黠ノ事ヲ謀ル無ク悉皆印紙ヲ貼用スルニ至ラン若シ然ラハ本官ハ或ハ其徵收額ノ減セサル可キヲ豫想スルナリ

○二十七番渡邊 清 本案ヲ賛成ス現行規則ハ頗ル允當ヲ欠キ且其稅額ノ過重ニシテ實施上ニ障礙ヲ起シ多ク逃稅者ヲ出シ今ヤー々責罰スルニ勝ヘサルニ至レリ故ニ本案ノ改正ハ尤モ時宜ニ適スト信ス然ルニ一ノ質問ス可キ有リ送金手形ハ金額ノ幾許タリ種類ノ何物タルヲ問ハス皆本案ニ遵依セシムルカ爲替手形ノ部内ニ之ヲ伍セ

シム可カラサルカ且其處分ハ手形條例ニ准據スルナランモ其金額及ヒ種類ハ之ヲ不問ニ置クカ

○外番二番神鞭知常

送金手形ノ爲替手形ト異ナル所以ヲ辨明セン送金手形ハ汎言スレハ爲替手形ノ一部分ニシテ從來各銀行ニ於テモ爲替手形ト同視シテ之ヲ取扱タルニ手形條例發行以來ハ區別ヲ爲スニ至レリ此送金手形ハ例ヘハ東京ノ誰某正金ヲ西京ノ誰某ニ送致セント欲スルトキ東京ニ於テ先ツ正金ヲ某銀行ニ交付シ其西京ノ代理店若クハ支店ニ托シテ誰某ニ正金ヲ支辨セシムルニ在テ即チ通常人民ノ送金ヲ取扱フニ限ル故ニ他ノ爲替手形ノ割引ヲ爲ス如キトハ全ク異ナリ要スルニ是レ銀行ノ顧主ニ對スル義務ヨリシテ薄少ノ手数料ヲ受ケ或ハ手数料ヲ受ケスシテ送金ヲ取扱フニ外ナラス

ス之ニ反シテ商人等ノ商業ニ關スル爲替金ハ皆割引ヲ爲ス是レ其區別ノ存スル所ナリ請フ二十七番ノ此辨明ニ因テ領會センコトヲ

○二十八番

箕作麟祥

證券印稅ノ現行規則ニハ賞罰例ヲ掲ケリ故ヲ以テ

新刑法實施以來自ラ權衡ヲ得サルノ狀ヲ見ル近來告發者ノ賞與ハ漸ク廢止スルニ傾向ス是レ甚タ善シ要スルニ現行規則ノ賞罰例ハ必ス改正ヲ加ヘサル可ラス本案第九條以下ハ刑法ト行政法トヲ合同セシ者ニシテ尤モ當ヲ得タリ現行規則ハ金額ニ應シ印稅ヲ増加セシモ本案ハ壹圓ナル最多限ヲ定メタルハ亦タ甚タ宜ニ適セリ但其收入増減ノ豫メ算定ス可ラサルハ實ニ內閣委員ノ説明スル如クナラン本官ハ復タ此事ニ關シ質問セサル可キモ聊カ其説明ヲ煩ハス者アリ本案第六「ヘーシ」第六行ノ「但爲替手形云々」ノ事ハ第十一

「ヘーシ」第四行ノ「爲替手形」ノ事ト矛盾スルニ似タリ第六「ヘーシ」ニハ荷爲替手形ノ文字ヲ掲ケサルモ此事タル海外貿易等ニモ關涉シ金額ノ最多ナル者ト思考ス然レハ則チ此第六「ヘーシ」ノ文中ニ荷爲替手形ヲ包含セシム可キカ如シ知ラス果シテ然ルカ又第三條ニ「前條ニ掲クル」ト言ヘルハ近來慣用スル法文ノ例ニ從フトキハ第二條ヲ指ス者ニシテ是レ前條即チ第二條ノ第一類第二類ヲ指スカ又第九條第二項ノ「令達」トハ果シテ何物ヲ言フヤ此令達ナル文字ハ其成例ヲ見サルヲ以テ本官之ヲ解スルニ苦シムナリ

○外三番小池第二條ノ第二類ニ荷爲替手形ヲ掲ケサルハ手形用紙ヲ用ヒシメサルニ由ル荷爲替ハ種類數多ニシテ其契約ノ書法モ各異ナリ故ニ手形用紙ヲ使用セシムルニ難ケレハ爲替手形約束手形

ノミ手形用紙ヲ用ヒシムルコトト爲セリ又前條云ヤトハ第二條ニ掲クル一切ノ書類帳簿即チ第一類第二類ヲ合シテ之ヲ言フ者ニシテ二十八番ノ見解ノ如シ又第九條ノ令達ノ文字ハ少シク新奇ニ似タレトモ府縣議員ノ如キ法律ヲ以テ定メタル者及ヒ中央衛生會員ノ如キ布達ヲ以テ定メタル者モ皆此文字中ニ包含セルナリ

○三十六番細川潤次郎本官モ本案ヲ是認スレトモ第二讀會ニ於テ少シク修正ヲ加ヘント欲スルヲ以テ爲メニ聊カ質問セン爲替手形及ヒ約束手形ハ手形用紙ニ書スルコトハ明瞭ナレトモ此手形用紙ニ書スルモ證券印紙ハ貼セサルヲ得サルカ若クハ手形用紙ニ書スレハ印稅ト一樣ノ價直ヲ有シ印紙ヲ貼スルヲ要セサルカ又第一類ニ期限ヲ定メサル預リ金證文ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用スト言ヘリ是レ第二